

# TOTO水環境基金

2018年度 助成団体活動報告

2018年4月～2019年3月(第12・13回)





# TOTO水環境基金

TOTOグループは、水まわりを中心とした、豊かで快適な生活文化を創造することで、社会の発展に貢献する企業を目指しています。持続可能な世界の実現のためには、TOTOグループの果たすべき役割である節水技術の追求とともに、地域の事情に精通し、地域を支える団体の活動が欠かせません。

そこで、TOTOグループは2005年度に「TOTO水環境基金」を設立し、水にかかわる環境活動に継続して取り組む団体への支援を続けています。企業による一時的な物資や資金の支援だけでなく、団体を支援することで持続的な発展を目指しています。

## 想いを同じくするパートナーを探して

助成団体の選考にあたっては、TOTOグループ社員から選出された選考委員が応募団体の方と面談をし、「水環境にかかわる地域課題を地域の方々と共に解決したい」という想いを伝えています。そのうえで、応募団体の活動の詳細やどのような想いを持って活動されているのかを確認し、「地域に根差した活動となりえるか」「一過性の活動ではなく、継続性があるか」という点を中心に選考を行い、想いを同じくする団体と活動をスタートします。

## 地域に根差した継続的な活動を支援

途上国では、水不足や劣悪な衛生環境により、数多くの人びとが命を落としています。また、環境保全、貧困、教育、ジェンダー平等の実現などの様々な課題を抱えています。このような状況において、特に衛生環境の課題解決には、一時的な水まわり器具などの物資や資金などの提供だけでなく、維持や管理の仕組みを根付かせるために、継続的に現地を支え、衛生的な生活環境の重要性を伝えていく活動が欠かせません。TOTO水環境基金は、このような活動を行う団体を支援することで、持続的な発展を目指しています。

## 地域の一員として共に課題解決に取り組む

TOTOグループでは、地球環境に貢献するボランティア活動を「グリーンボランティア」と称し、TOTOグループ社員の参加を促しています。TOTO水環境基金助成団体の活動にもTOTOグループ社員がボランティアとして積極的に参加するとともに、一般市民の方々へも参加を呼びかけています。助成期間が終わっても情報交換やボランティア参加などを通じ、助成団体をはじめとする地域の皆様との交流は続いており、年々活動の輪が広がっています。また、助成団体のネットワークづくりや活動のステップアップ支援を目的として、「助成団体交流会」を開催しています。団体の方々や助成活動に関わるTOTOグループ社員が一堂に会して、助成団体による事例発表、懇親会などの交流を図ります。こうした活動は、TOTOグループ社員の社会貢献・地域共生に対する意識の醸成と社会貢献活動へ参画する“きっかけ”となっており、このプログラムを通じた地域とのコンタクトの積み重ねが、TOTOグループと地域社会との共生につながっていくと考えています。

## みんなの想いを反映して

助成金額は、「お客様」に購入いただいた節水商品による節水効果、「株主様」の株主優待制度による寄付、「TOTOグループ社員」によるボランティア活動の参加人数を基に算出し、さらにTOTOがマッチングすることで決定しています。ステークホルダーの皆様の環境貢献へのかかわりが増すほど、「TOTO水環境基金」の助成金が増えていく仕組みです。







## 助成団体一覧(国内)

九州	No.	活動地	団体名	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
				第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	-	-
	113	宮崎	MFV会			●													
	114	宮崎	高千穂森の会					●											
	115	宮崎	一般社団法人 日本スキムボード協会											●	■	■	■	■	■
	116	宮崎	NPO法人 みやざき技術士の会												●				
	117	鹿児島	郡山マグニチュード21				●												
	118	沖縄	宜野湾の美ら海を考える会			●													
	119	沖縄	おきなわ環境塾				●												
	120	沖縄	NPO法人 珊瑚舎スコーレ		●			●											

## 助成団体一覧(海外)

海外	No.	活動地	団体名	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
				第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	-	-
	1	中国	NPO法人 環境資源保全研究会			■	■	■											
	2	インドネシア	日本インドネシア NGO ネットワーク			●													
	3	バングラデシュ	NPO法人 日本下水道文化研究会			■	■	■											
	4	ベトナム	社団法人 国際海洋科学技術協会			■	■	■											
	5	ミャンマー	認定 NPO法人 ブリッジ エーシア ジャパン			●	●	●											
	6	中国	ひふみや〔自然農法〕					●											
	7	ネパール	NPO法人 ミランクラブジャパン						●										
	8	フィリピン	NPO法人 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン							●									
	9	ケニア													●				
	10	フィリピン	NPO法人 イカオ・アコ									●			■	■	■	■	■
	11	カンボジア	World Assistance for Cambodia and Japan Relief for Cambodia								●	●	●	●	■	■	■	■	■
	12	モザンビーク	モザンビークのいのちをつなぐ会									●	●	●	■	■	■	■	■
	13	ネパール											●						
	14	東ティモール	NPO法人 ウォーターエイドジャパン												●				
	15	インド													●				
	16	ミャンマー	認定 NPO法人 アジアチャイルドサポート												●	■	■	■	■
	17	インド	認定 NPO法人 日本水フォーラム												●				
	18	インド	Deepak Foundation												●	■	■	■	■
	19	ベトナム	公益財団法人 プラン・インターナショナル・ジャパン												●				
	20	スーダン	認定 NPO法人 ロシナンテス												■	■	■	■	■
	21	フィリピン	NPO法人 ハロハロ												●	●			
	22	パキスタン・イスラム	認定 NPO法人 難民を助ける会												●	●			
	23	インド	認定 NPO法人 ICA 文化事業協会												●	●			
	24	ケニア													●				
	25	ウガンダ	認定 NPO法人 道普請人															●	
	26	インドネシア	公益財団法人 オイスカ															●	

## 過去の助成状況

第1回	2005年 10月～2006年 9月	総額 1,090万円(12団体)	第8回	2013年 4月～2014年 3月	総額 1,007万円(20団体)
第2回	2006年 10月～2007年 9月	総額 1,560万円(12団体)	第9回	2014年 4月～2015年 3月	総額 1,300万円(25団体)
第3回	2007年 10月～2010年 9月	総額 8,051万円(29団体)	第10回	2015年 4月～2016年 3月	総額 1,430万円(22団体)
第4回	2008年 10月～2009年 9月	総額 1,200万円(16団体)	第11回	2016年 4月～2017年 3月	総額 1,556万円(24団体)
第5回	2009年 10月～2010年 9月	総額 1,102万円(18団体)	第12回	2017年 4月～2020年 3月	総額 9,531万円(35団体)
第6回	2010年 10月～2011年 9月	総額 751万円(10団体)	第13回	2018年 4月～2021年 3月	総額 1,752万円(10団体)
第7回	2012年 4月～2013年 3月	総額 980万円(16団体)	第14回	2019年 4月～2022年 3月	総額 2,465万円(10団体)

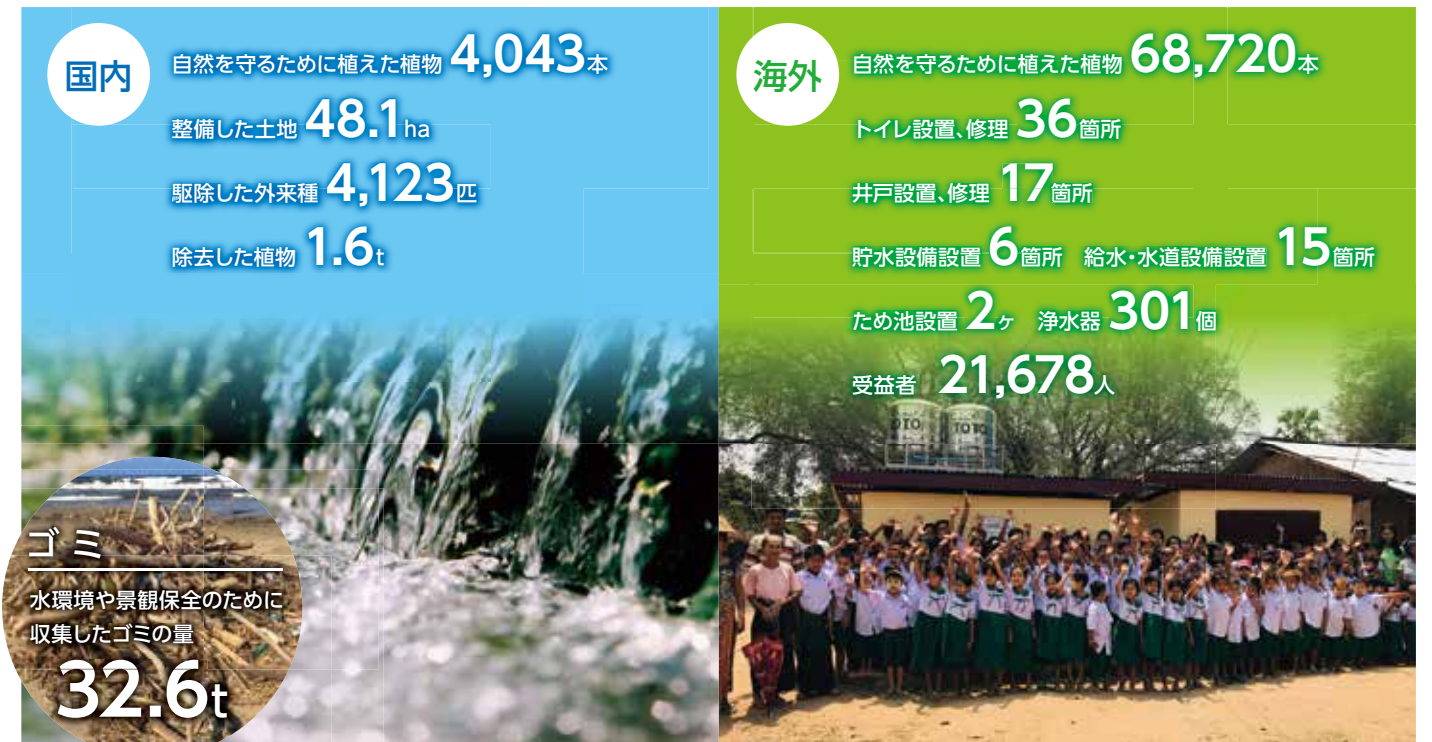
※第3回、第12回は、TOTO創立周年記念事業として助成金を増額。

## 2018年度助成活動の成果

助成金 総額 **3,647.3**万円 運営経費 **586**万円

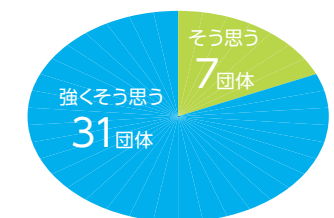
### ■ 助成によって実施した活動

活動回数 **751**回  
 助成団体 **38**団体  
 活動にご参加いただいた人数 **31,907**人  
 うちTOTOグループ参加人数 **1,679**人

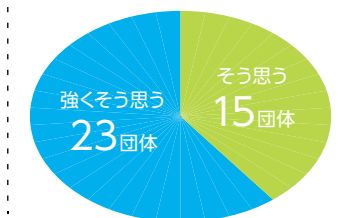


### ■ 人や地域へもたらした変化

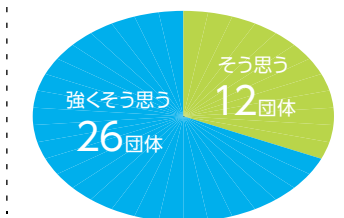
地域課題の改善や解決のために貢献できたと思いますか？



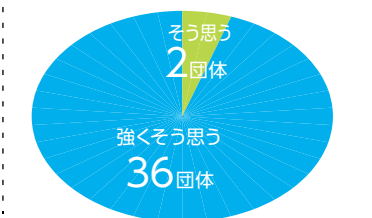
環境に配慮した行動をするべきだという意識の変化を、より多くの人々に与えられたと思いますか？



別の環境課題を見つけた場合に、新たに取り組んでみることを考えてもいいと思いますか？



TOTOは地域・社会課題の解決に貢献していると思いますか？



助成した38団体へのアンケート調査結果より

### 第1回～第13回の累計

助成団体:249団体 助成金額:3億1,310万円  
 活動回数:3,427回(第7回以降) 参加人数:136,174人(第7回以降)

## 第13回(1年目) 助成団体一覧

No.	団体名	プロジェクト名	主な活動地域	ページ
1	NPO法人 リアスの森応援隊	豊かな海と森を作る自伐林業家の養成	宮城県気仙沼市	10
2	御前山ダム環境センター	御前山ビオトープ及び御前山ダム周辺における希少動植物の保全・育成活動と環境整備	茨城県常陸大宮市	11
3	ほたる野を守るNORAの会	「きみとぼくの心の故郷を次世代に!」 田んぼのある里山「ほたる野」を皆さまの心の故郷に!	千葉県習志野市	12
4	一般社団法人 サーフライダーファウンデーションジャパン	海岸のビーチクリーンを通じた 水環境への意識向上	神奈川県鎌倉市・ 藤沢市・茅ヶ崎市	13
5	NPO法人 小網代野外活動調整会議	小網代の森「やしゃぶし谷戸」における ホテル舞う水辺環境の創出	神奈川県三浦市	14
6	笹尾川水辺の楽校運営協議会	水辺の楽校を拠点とする河川環境整備と 水環境啓発運動	福岡県北九州市八幡西区	15
7	NPO法人 ハロハロ	沿岸水環境の保全のためのマングローブ植樹と ごみ対策事業	フィリピン共和国 ボホール州アルマー島	16
8	認定NPO法人 難民を助ける会	山村の女子児童の健康を守る、 水とトイレのプロジェクト	パキスタン・イスラム共和国 ハリプール郡カンプール地区	17
9	認定NPO法人 ICA文化事業協会	インド干ばつ地域での飲料水確保のための 井戸再生事業	インド マディヤ・ プラデーシュ州ジャブア郡	18
10	認定NPO法人 道普請人	ケニア自然水源の衛生的な利用環境整備と衛生教育	ケニア共和国 ナンディ郡 モソプ準郡 カピサガ地区	19

## 第12回(2年目) 助成団体一覧

11	NPO法人 白神山地を守る会	白神山地の最大の恵である良質な水を 保全・活用する活動	青森県西津軽郡	20
12	宮城県淡水魚類研究会	仙台市民とともに醸成する水文化復権の流れ	宮城県仙台市	21
13	NPO環〜WA	1300年の里山の歴史を未来へ	茨城県茨城町	22
14	わたらせ未来基金	渡良瀬川が繋ぐ上・下流域環境保全再生プロジェクト	栃木県、群馬県、埼玉県 茨城県	23
15	八千代市ほたるの里づくり実行委員会	生物多様性の基地として〜目指そうホテルの自生〜	千葉県八千代市	24
16	NPO法人 森のライフスタイル研究所	千葉県九十九里海岸防災林の再生 〜海岸林の機能強化をめざして	千葉県山武市	25
17	白子川源流・水辺の会	白子川源流域の湧水量と水質の回復による 水辺環境の再生	東京都練馬区	26
18	DEXTE-K(でいくてっく)	西なぎさ発:東京里海エイド	東京都江戸川区	27
19	NPO法人 海の森・山の森事務局	独自メディアで発信!大岡川クリーンアップ大作戦	神奈川県横浜市	28

20	金山里山の会	水と緑の輝く里山プロジェクト	富山県射水市	29
21	大富山を愛する会	大富山湿地の涵養と保護及び 美佐野街道ふれあいの場所整備	岐阜県土岐市	30
22	NPO法人 家棟川流域観光船	家棟川・童子川・中ノ池川に ビワマス戻すプロジェクト	滋賀県野洲市	31
23	川と海つながり共創プロジェクト	京都・保津川から世界の海を美しく 〜内陸部から取り組む海ごみ発生抑制プロジェクト	京都府亀岡市	32
24	NPO法人 ゴミンゴ・ゴミ拾いネットワーク	島ゴミプロジェクト 〜離島に流れ着く漂着ゴミ拾い〜	和歌山県友ヶ島、 兵庫県家島	33
25	NPO法人 川塾	かっぱの川そうじ	徳島県阿波市	34
26	東朽網校区まちづくり協議会	水と緑の美化プロジェクト	福岡県北九州市小倉南区	35
27	NPO法人 改革プロジェクト	Yの字作戦2018	福岡県宗像市	36
28	津古ふるさと会	津古の住環境に溶け込む宝珠川の清流再生と維持	福岡県小郡市	37
29	NPO法人 水辺に遊ぶ会	生きもの、子ども、自然が元気な 中津干潟みらいづくり活動	大分県中津市	38
30	関の江海岸の自然を守る会	関の江海岸の自然を守る会	大分県別府市	39
31	NPO法人 おおいた環境保全フォーラム	海浜生態系再生プロジェクト 〜命をつなぐ海岸の復活をめざして〜	大分県佐伯市	40
32	一般社団法人 日本スキムボード協会	ecoプロジェクト宮崎〜アカウミガメとの共存〜	宮崎県宮崎市	41
33	NPO法人 イカオ・アコ	水源の森を守り、学校・地域に水を届けよう	フィリピン 西ネグロス州シライ市、 ギバラオン村シバト地区	42
34	World Assistance for Cambodia and Japan Relief for Cambodia	カンボジア農村地域の植樹活動及び環境教育	カンボジア ステュングトゥレン州・ ラタナキリ州・モンドルキリ州	43
35	認定NPO法人 アジアチャイルドサポート	「水で支える暮らし」と「未来へつなげる水環境」	ミャンマー マンダレー地域 チャ・プ・ダウン地区 ウン・ミン・カン村	44
36	Deepak Foundation	Water Conservation	インド グジャラート州 ハロル・カロール地区 ティンビ村、ラダンブル村	45
37	認定NPO法人 ロシナンテス	水衛生改善を通じた、スーダンでの コミュニティー開発事業	スーダン共和国 北コルドファン州	46
38	モザンビークのいのちをつなぐ会	モザンビーク・ペンバにおける公衆衛生プロジェクト	モザンビーク共和国 カーポデルガド州ペンバ	47



# 1 NPO法人 リアスの森応援隊

国内 [代表者] 小野寺 誠

気仙沼市は、豊かな森が海洋資源に大きな影響力を持つという「森は海の恋人」運動の発祥の地です。森林の適正な整備を推進することにより、環境の保全、向上に資するとともに、森林愛護や自然保護の啓発に関する事業などを行うことで、公益の増進に寄与すべく2015年に当団体を設立しました。震災により沿岸部が壊滅的な被害を受けた当地域から、豊かな海づくりにもつながる林業の必要性の警鐘を鳴らし、市内外からの林業従事者の拡大を軸とした里山コミュニティを創造することによって、担い手不足の解消、被災地の生業作り、衰退する一次産業(林業)の生業化のモデル作りを目指しています。

- 自伐林業家養成塾「森のアカデミー」開催  
森林保全の必要性を啓発し、自伐林業家として林業を生業とする人材を養成する各種林業研修の実施
- 山の日啓発イベント「森森フェスタ」開催  
幅広い層への森林保全の啓発イベント。また、生徒・児童を対象とした総合学習支援を要請に応じて実施
- 個人の自伐林業家支援  
林業機具や機械のレンタル、林業補助金制度の申請手続き補助など
- 「森ワーカー制度」の展開  
人手を必要とする山主さんと、林業の技術がある人とのマッチング



森森フェスタ 2018「気仙沼森林フォーラム」

## 豊かな海と森を作る自伐林業家の養成

■活動地域：宮城県気仙沼市 ■助成期間(年)：1 2 3

豊かな森作りには、森林の適正な整備を行う必要があります。「森は海の恋人」運動のメッカである気仙沼市における森林整備を進めるため、その必要性を啓発するイベントとして森森フェスタ2018「気仙沼森林フォーラム」を開催しました。また、手入れがされていない山林を適正に整備する自伐林業家を養成するために、自伐林業家養成塾「森のアカデミー」(第15期、第16期)を開催しました。これらの事業で使用する測量機材や刈払機を購入し活用することによって、より効率よく事業を進めることができました。

- 活動回数 / 17回
- 活動参加人数 / 420人

### 現地の声

<団体代表>  
代々受け継いできた山を所有しているものの、その場所もわからず、このまま放置して良いのかという思いを持っている山主や、山の手入れをしたいと思っても、自身の技術・体力が不安で、協力者もいないことで実施できていない山主が多いことを知りました。一方、山を施業する技術はあっても、山を持っておらず、どこに行けば自分の能力や技術が活かせるかわからない人もいることがわかりました。活動を通じて両者のマッチングを図っていききたいと思います。



「森森フェスタ 2018」での木工教室開催



自伐林業家養成塾「森のアカデミー」チェーンソー研修



自伐林業家養成塾「森のアカデミー」軽架線研修

# 2 御前山ダム環境センター

国内 [代表者] 青山 民雄

御前山ダムおよび周辺の豊かな自然環境を地域のかげがえのない財産として、将来にわたり維持・保全していくことを目的として2009年に当団体を設立しました。御前山ビオトープを始めとした御前山ダムの環境対策と連携し、一般市民を対象として地域の幅広い取り組みを総合的・持続的に進めることにより、地域振興に貢献することを目指して活動しています。

- 「御前山ビオトープ」の整備  
御前山ダム建設に伴い、水没する湛水地内に生息していた希少動植物(タコノアシ、イヌショウマなど)の移植など、地元のボランティアを中心とした保全活動を実施
- 景観整備(ヤマザクラの植栽)
- 子どもや大人が自然と触れ合える場・機会の提供  
「御前山ダム湖周辺を歩く会」、子どもを対象とした自然観察会や農業体験などの実施



景観整備活動

## 御前山ビオトープ及び御前山ダム周辺における希少動植物の保全・育成活動と環境整備

■活動地域：茨城県常陸大宮市 ■助成期間(年)：1

2008年からヤマザクラの植栽を始めていましたが、2012年の御前山ダム完成に伴い、「御前山ダム湖周辺に2,000本のヤマザクラを植栽しよう!」を目標に掲げ、これまでに約900本のヤマザクラを植栽しました。今年度の活動では、その維持管理を計9回実施するとともに、地元小学6年生とその保護者を迎えて85本のヤマザクラを植栽しました。

また、御前山ダム建設に伴い、そこに生息していた希少動植物を移植した「御前山ビオトープ」の保全・育成活動、環境整備を2回実施しました。生育状況はとてよく、個体数も増え安定しています。活動が新聞に掲載されたり、市のお知らせ版に活動の案内が掲載されたことで、市内外からの問い合わせが増えてきています。

- 活動回数 / 20回
- 活動参加人数 / 663人
- うちTOTOグループ社員 / 8人
- 植樹 / 85本(ヤマザクラ)
- 整備した面積 / 250,000㎡

### 現地の声

<団体代表>  
年々、虫取りや稲作体験をしたことがない子どもや大人が増えており、私たちの活動に必要なことは豊かな自然を残していくことだけではなく、そういった経験が出来る場を提供していくことなのではないかと考えさせられました。  
<参加者>  
・とても貴重な体験ができました。自分たちが植樹したヤマザクラを通じて地域の自然を長く見守っていききたいです。  
・自然観察会に参加しましたが、見たことがない生物ばかりでした。昆虫は苦手ですが、水辺の生物を観察するのは楽しかったです。



ヤマザクラの記念植栽



自然観察会(地元中学1年生)



田んぼの学校(地元小学5年生)



3

# ほたる野を守る NORA の会

国内

【代表者】 蔭山 盛久

1992年の団体設立当時、この田園地区は通称「ほたる野」と呼ばれ、初夏には平家ほたるが乱舞する斜面林を有する里山でした。しかし、1998年頃には近隣の土地造成などの影響でほたるは激減し、高齢化によって田んぼの休耕田化も進みました。そこで、良好な自然環境にしか生息できない「ほたる」をこの里山のシンボルとして、将来に向けて絶滅させないようにすること、休耕田化に歯止めを掛けることを目指してこの地区の環境保護活動を開始しました。この素晴らしい自然環境を次世代の子どもたちへ確実に引き継いでいきます。

- 【稲作事業】  
休耕田化に歯止めを掛けるため、年間を通して市民・近隣小学校児童による田植え・稲刈り・餅つきなどの農業体験イベントを実施
- 【ホタルの自然回帰事業】
- ・ホタル飼育の専門家による現地調査と技術指導
  - ・ホタル増殖実験設備の設置



稲刈り会

## 「きみとぼくの心の故郷を次世代に!」 田んぼのある里山「ほたる野」を皆さまの心の故郷に!

■活動地域：千葉県習志野市 ■助成期間（年）： 1 2 3

習志野市が指定する自然保護地区に唯一残る田んぼのある里山で、里山の自然環境を守る活動をしています。農家の高齢化による休耕田を再生し、親子の皆さんに米作りの農作業体験を通して、食への関心・食への知識・食の大切さを身に着けていただくことを目指しています。2018年度の活動では農機具を購入し、大きな課題である会員の高齢化による作業負担の軽減を図りました。結果として当会の体力強化につながり、活動が活発化しました。また今回実施した生態系調査により、私たちの環境活動が生態系維持にどのような効果をおよぼしているかを確認することができました。今後はデータで比較することができるようになったので、よりの確かな環境保護活動が可能になりました。ホタルの自然回帰については、増殖実験設備を設置したことで、実現に大きな期待がもてるようになりました。これからも、子どもたちが将来この緑豊かな田んぼを思い出し、自分の「心の故郷」と思ってもらえる自然環境を維持するため、環境保護活動を続けていきます。

- 活動回数 / 9回
- 活動参加人数 / 1,093人
- うちTOTOグループ社員 / 24人
- 整備した面積 / 2,975㎡

### 現地の声

<団体スタッフ>  
当会の活動に参加している児童からは、「お米を一粒も残さず大切に食べようと思います」「食べているお米は沢山の人の手で作られていることがわかりました」「お米を作るのがこんなに大変だと知りませんでした」などの感想が繰り返し寄せられています。子どもの教育の為、親子3世代と一緒に活動に参加されるご家族も多くおられます。



小さな子どももカー杯ががんばった餅つき大会



NPO ホタルの会講師による現地調査と技術指導



約5ヶ月でたわわに実った稲を刈り入れ

4

# 一般社団法人 サーフライダーファウンデーションジャパン

国内

【代表者】 中川 淳

1984年にカリフォルニアでサーファーにより設立され、1993年から日本で活動を始めた当団体は、主に海水の水質調査活動を行ってきました。2011年には一般社団法人となり、海岸エリアを中心とした環境保全の啓発活動を、健康的で持続可能なライフスタイルの中で実現することを目的に活動しています。海水の汚染は海岸エリアの市民にとって日常の問題であり、海岸を有する市町村にとって観光資源を保全するためにも重要な課題です。また『森林環境や住環境、河川などとの「水の繋がり」の最終地点である海岸や海中の状態を知ってもらうことは、地球全体の環境保全に繋がる』という理念のもと、他団体との連携を深め、特に子どもたちへの環境教育に力を入れています。

- 【海を守る】
- ・メンバーの意識調査を実施し、政策や企業活動の指針として提言
  - ・有識者、学識経験者との連携
  - ・党派を超えたサーファー議員たちによる「海を愛する政治家フォーラム」の開催
  - ・地域のサーファーが抱える環境問題に対するシンポジウムの開催支援
- 【海をきれいにする】  
全国各地の水質調査活動、ビーチクリーン活動の支援
- 【海の偉大さを伝える】  
イベント「海の寺子屋」の開催  
ビーチクリーンや簡単にできる水質測定、プラスチックゴミを使ったアート制作などを通じてゴミに触れ観察し、これらがどこで生まれどこへ行くのかを学び、考える



ビーチクリーン活動

## 海岸のビーチクリーンを通じた水環境への意識向上

■活動地域：神奈川県鎌倉市・藤沢市・茅ヶ崎市 ■助成期間（年）： 1 2 3

ビーチクリーンと水環境への意識向上を図ることを目的とした種々の環境啓発を組み入れた活動は、日常的に海岸を利用する住民にも新鮮に感じられたようです。ビーチクリーンを定期的に行う団体は大変多く存在しますが、ゴミについて「楽しいワークショップ」を通じて学ぶ機会を提供するプログラムは珍しく、特に家族連れに楽しんで参加いただきました。いかにこのプログラムの経験を日常へ持ち帰り、考える機会を増やしてもらえるか？ということを中心に、回を重ねるごとにワークショップや有識者による講義の内容を検討し、改善を重ねました。「ゴミを拾うことよりもゴミを出さない工夫」「住環境から海中にいたるまでの水の繋がり」などの点について、参加者が日常で考えるきっかけを作ることができたと思います。

- 活動回数 / 7回
- 活動参加人数 / 233人
- うちTOTOグループ社員 / 18人

### 現地の声

<団体代表>  
・どうやって参加者に考えてもらうかが大事なことだと実感しました。  
・参加者が楽しそうで張り合いがありました。

<参加者>  
・家庭内で環境について話し合うきっかけとなりました。  
・子どもが海のゴミで作った作品を家に飾っています。  
・ゴミを出さないよう買い物袋をもらわなくなりました。  
・海岸に遊びに行ったときの視点が変わりました。



イベントでの啓発活動



プラごみアート



深海のゴミと水の繋がり講義



# 5 NPO 法人 こあじろ 小網代野外活動調整会議

国内 [代表者] 岸 由二

当団体は、神奈川県が所有する三浦半島「小網代の森」の自然の維持管理作業を、県・三浦市・公益財団法人かながわトラスとみどり財団と協働して推進する非営利団体です。

1983年「ポラーノ村を考える会」(※)として活動を始めて以来、流域思考を組み込んだ自然共生ビジョンを提案し、35年以上実践し続けています。現在は、設立の基盤となった諸団体が新たに形成するネットワークとも連携しつつ、小網代の森の自然環境保全のための各種事業を推進しています。

※「ポラーノ」とは、作家・宮澤賢治の童話に出てくる、人と自然が共生する理想の共同体にある広場の名前

- 【小網代の森保全】
  - ・ 湿原回復作業 (流域の笹刈り、有害植物駆除、堰の設置、流路変更など)
  - ・ 光環境の改善 (流路沿いの樹木伐採)
  - ・ ホタルの発生数調査、カワニナの増殖などによるホタル生育環境の整備
  - ・ 流量回復作業の実施
- 【環境学習・自然体験】
  - ・ 周遊散策路の整備
  - ・ ボランティアワーク、ホタル観察会、子どもを対象とした体験型環境学習会の開催
  - ・ 訪問者 (学校、団体、個人など) に対する有料ガイド実施



活動に参加した法人スタッフ

## 小網代の森「やしゃぶし谷戸」におけるホタル舞う水辺環境の創出

■活動地域：神奈川県三浦市 ■助成期間 (年)：1 2 3

小網代の森は、日本における貴重な流域生態系の保全地域として位置づけられています。

しかし、保全地域指定前に長年にわたり放置されていたため、特に森の中にある「やしゃぶし谷戸」は、しっかりとした整備も出来ておらず、水路にも日が差さない、ホタルも見られない暗い谷になっています。そこで今年度は、「やしゃぶし谷戸」の谷底の本格的な草刈り、水路に覆いかぶさっている枝の伐採、水路の整備に着手しました。最初に草刈りとササ刈りを行い、谷の入り口から徐々に奥へと進めていった結果、ササに埋もれていたアスカイノデ(シダ科)が現れ、伐採木にクワガタを確認したほか、周辺でカブトムシやタマムシも確認できるなど、生物多様性の様相がうかがえました。

- 活動回数 / 10回
- 活動参加人数 / 67人
- 整備した面積 / 24,000㎡

### 現地の声

<団体代表>

4月から実施した整備作業のため、今年度はホタルを確認することができませんでしたが、6月以降の作業で「やしゃぶし谷戸」の水路には日光が当たるようになり、ホタルのエサであるカワニナも確認されていることから、2年目以降のホタルの確認を期待しています。

<参加者>

小網代の森をヤナギテラスから見渡した時に「やしゃぶし谷戸」の方向だけホタルを見ることができません。この作業をすることで「やしゃぶし谷戸」にもホタルが見られるようになれば本当に素晴らしいことなので、これからの作業にもぜひ参加したいと思います。



子どもたちとアカテガニのピオトープ作り



高校生・大学生インターンによる生きもの調査と作業



伐採木の処理

# 6 笹尾川水辺の楽校運営協議会

国内 [代表者] 松尾 一四

当会は、自然と触れ合い、水辺と関わる親水施設および環境学習の場として2004年に開校した「笹尾川水辺の楽校」の運営団体です。活動地である笹尾川は、かつては貴重な舟運水路の一部であり、長い歴史を持つと同時に北九州市の水道水源になっている河川です。笹尾川の水質保全・向上を図るためには、河川の環境を守っていくことが重要であり、地域の子どもたちを始めとする住民の方々の川への関心を深めることにより、自分たちの手で河川を大事にし、河川環境を守ろうという心を育てることを目的としています。

- 【河川環境整備】
  - ・ 会員および企業との協働による河川敷の清掃、除草作業
  - ・ 水質調査、水質改善のための竹炭投入
- 【水環境啓発運動】
  - ・ 笹尾川水辺の体験教室 (小学生対象: カヌー、水生生物調査、水質調査など)
  - ・ 水環境教育「みずしるべ」(対象: 小学生)
  - ・ 中学生による橋脚への壁画の制作
  - ・ ミズベリング (対象: 地域住民) 清掃活動、講演会など
  - ・ 鮭の飼育と稚魚放流大会 (対象: 幼稚園児)



河川環境整備 協働作業

## 水辺の楽校を拠点とする河川環境整備と水環境啓発運動

■活動地域：福岡県北九州市八幡西区 ■助成期間 (年)：1 2 3

自然と触れあい、水辺と関わる親水施設および学習の場として設立した「笹尾川水辺の楽校」を拠点として、河川環境整備や水環境啓発運動を行っています。

河川整備活動としては、会員による定例活動や地域住民との清掃活動に加え、TOTO社員と協働で大がかりな除草作業を実施しました。川環境への関心を持ってもらうことを目的に企画した芝谷橋橋脚の壁画は、香月中学校美術部の協力で「香月今昔物語」の描画が完成しました。また、住民との協働で行った水質試験や水生生物調査のほか、水環境啓発運動「いきいき子供講座」やイベント「水辺で遊ぼう!」でのカヌー教室、幼稚園児によるサケの稚魚放流大会などを実施し、当初の計画通りプロジェクトを遂行することができました。

- 活動回数 / 11回
- 活動参加人数 / 968人
- うちTOTOグループ社員 / 48人
- 整備した面積 / 8,000㎡

### 現地の声

<団体代表>

壁画制作の協力をしてくれた香月中学校美術部は、北九州市教育委員会から地域貢献賞「福原賞」を授与されました。部活の人氣が高まって、部員が増加しています。

<参加者>

・水生生物調査では、17種類の魚類が取れました。種類の多さにびっくりしています。  
・夏休みのイベントで参加ノートをもらってうれしかったです。



除幕式 橋脚壁画



みずしるべ 透視度の測定



第5回サケの稚魚放流大会



当団体は、代表・成瀬悠が社会企業を志し、2008年よりフィリピン・パナイ島のNGO LOOBのフェアトレードボランティアへの関与を経て、活動地域や裨益者を拡大し、生計向上から教育まで広く地域発展事業を展開するNPOとして2012年に法人化されました。

だれもが魅力的に働き生きることのできる社会を目指し、現在はフィリピンと日本人のパートナーシップに則り、手工芸やマイクロクレジットなどを通じた生計向上事業、幼稚園から大学までの奨学金制度の運営などの教育支援事業、環境美化や国際理解への推進などの啓発事業を行い、相互に豊かな社会づくりに参加できる人材や組織の育成を行なっています。

## 【生計向上事業】

- ・フェアトレード  
マニラ貧困地域で廃材を活用した雑貨を制作、セブ貧困地域で自然素材アクセサリーブランドを設立
- ・マイクロクレジット  
セブ・ボホール全3事業地における少額資金融資の管理・運用が可能な住民組織を育成

## 【教育事業】

- ・マニラとセブ全3校の幼稚園を運営・管理支援
- ・マニラとセブで大学奨学金制度を運営し、大学への進学・継続に貢献

## 【啓発事業】

- ・セブ・ボホール2事業地において、行政と市民が連携し、ゴミ回収システムと草の根のゴミ拾い活動をリンクさせた環境美化活動を展開
- ・スタディツアーを通し、フィリピンと日本相互の国際理解を促進



セブ島における幼児教育

## 沿岸水環境の保全のためのマングローブ植樹とごみ対策事業

■活動地域：フィリピン共和国 ボホール州アルマー島

■助成期間（年）：1

当プロジェクトでは、フィリピン現地の海藻農家組合が主体となり、生活の支えである海を守るため、マングローブ林の植樹および沿岸ゴミの削減事業を行いました。

プロジェクト目標として、6万本のマングローブ植樹およびその生育管理と、住民参加による800kgの沿岸ゴミの回収および持続的なゴミ管理スキームの設計を目指し、ともに達成することができました。

これらの実績に加えて、プロジェクトを通して副次的に育まれた住民一人ひとりの海への愛着と、地域の連帯感の2点は非常に大きな成果です。住民・地域自らが環境に対する強い意思を育めたことは、今回植樹したマングローブ林の長期的な管理・保全と、ゴミ管理スキームの継続に寄与すると考えるからです。次の世代にもきれいな海を残すという目標のための、重要な一歩を踏み出すことができました。

- 活動回数／58回 ●活動参加人数／2,384人
- 受益者数／1,208人
- ゴミの回収量／977kg
- 植樹／61,100本（マングローブ）
- 小学校の水道／2基
- ゴミ集積所／2基
- 水道（小学校内）／1箇所

## 現地の声

&lt;地域代表&gt;

マングローブの植樹は私たちにたくさんの恩恵をもたらしました。海が以前より綺麗になったように感じます。植樹場所の周りでは小さな魚やカニが多く見られるようになったと、漁師たちが喜んでます。また、マングローブを植える作業を通じてコミュニティの連帯が強まりました。



マングローブの定期モニタリング



毎月行う沿岸清掃



小学校の水道開通式

当会は、日本の善意の伝統に基づき1979年に設立された団体であり、「一人ひとり多様な人間が、各々の個性と人間としての尊厳を保ちつつ共生できる、持続可能な社会をめざす」というビジョンを掲げて活動しています。また、「困ったときはお互いさま」をミッションとし、紛争・自然災害・貧困などにより困難な状況に置かれている人々に必要な支援を届け、明日の社会が今日よりも豊かで希望の持てるものになるように支援を展開しています。このような活動を日本を含めて世界の人々のご支援を得て実践することを通じ、誰もが世界の平和と安定に貢献する主体たり得ることを示すとともに、少数派の人々が拒絶され、弱者が取り残されないような社会の実現に向けて努力しています。

5つの事業分野を中心に日本を含む世界15カ国で活動

## 【緊急支援】

ミャンマー避難民支援、アフガン帰還民支援、南スーダン難民支援の他、東日本大震災の復興支援を震災直後から継続

## 【障がい者支援】

車いす製造・配付、職業訓練校運営、インクルーシブ教育などの実施

## 【地雷対策】地雷回避教育、被害者支援、地雷除去支援を実施

## 【感染症対策】母子保健事業や水・衛生保健事業の推進

## 【啓発活動】日本における訪問学習受け入れ、出張授業などの実施



避難民の親子に支援物資を手渡す現地駐在員（バングラデシュ・クトゥパロン避難民キャンプ）

## 山村の女子児童の健康を守る、水とトイレのプロジェクト

■活動地域：パキスタン・イスラム共和国 ハリプール郡カンプール地区

■助成期間（年）：1

パキスタンでは、教育予算が限られているため、基本的な衛生設備が備わっていない小学校がたくさんあります。特に、きれいな水とトイレがない女子小学校では、児童は排泄するために家に帰るだけでなく、我慢を強いられている状況であり、就学率や出席率が低い原因の一つとなっています。

事業地のダラ女子小学校は丘陵地帯にあり、交通の便が悪く、NGOなどの支援が届きにくい学校です。4基のトイレはすべて壊れ、水も校外の共同井戸から引いたパイプを通じて1日30分しか得られませんでした。本事業では、すべてのトイレを改修し、校内に井戸を掘削、手洗い場や浄水器も設置しました。施設が長く大切に使われるよう、工事には児童の家族が関わり、完成した施設を児童が装飾しました。教員・保護者や児童に対する衛生啓発も行い、事業前後の聞き取り調査で、「過去1ヵ月に下痢をした」と答えた児童が51%から12%に減るなどの効果が得られました。

- 活動回数／20回 ●活動参加人数／681人
- 受益者数／700人 ●衛生教育／470人
- トイレ改修／4基 ●汲み取り式浄化槽／1基
- 手洗い場／1箇所 ●浄水器／1個 ●給水機／1個
- 井戸／1箇所（215フィート、給水モーター含む）
- 貯水タンク／1個（約1,800リットル）
- 安定化電源装置／1個

## 現地の声

&lt;受益者&gt;

・昔からこの学校は貧しくて、衛生施設はほとんどなく、児童は野外で用を足していました。このような状況だから、子どもを学校に行かせたがらない親もいました。念願だった多くの水と清潔なトイレが学校にもたらされ、今まで学校に来られなかった児童も入学することができるようになりました。

・以前は、学校のトイレが臭くて、水もないことがすごく嫌でした。学校に来る途中で家に引き返したことも何度かあります。今では、学校に行くことが楽しみになりました。



手洗い場の供与と啓発により、子どもたちが正しい手順で手洗いを実行



児童たちが環境や衛生をテーマにした絵で手洗い場のタイルを装飾



保護者と教員の話し合いによって、供与した施設の維持管理計画を決定



# 9 認定 NPO 法人 ICA 文化事業協会

海外 [代表者] 佐藤 静代

当団体は1980年代より途上国を中心に貧困削減、自然環境保護、女性と子どものエンパワーメントなどの国際協力・地域開発事業を行っています。ICAインターナショナル(本部:カナダ)に加盟しており、活動は35カ国のICAネットワークと連携し、実施しています。

「そこに住む住民が、地域の専門家である」と「住民が積極的に地域開発に参加してこそ持続可能な発展が可能である」という信念に基づき、住民参加型の活動を実施することで、文化・社会・経済のバランスのとれた地域社会形成と人材育成を行い、世界が直面している様々な課題の解決を目指しています。

## 【実施中・実施予定事業】

### <ケニア>

- ・半砂漠地域の学校における環境教育を兼ねた植林活動
- ・干ばつ地域の学校における栄養状態改善のための給食配布

### <コートジボワール>

失業者の多い農村地区における循環農業技術を用いた農村開発事業

### <ネパール>

- ・防災施設を兼ねたトレーニングセンター建設と職業訓練
- ・山間部女学生の就学率向上と女性の衛生状態改善を目指した使い捨てナプキン製造支援と啓発教育

### <インド>

- ・子どもたちを対象にした環境教育を兼ねた植林活動
- ・半砂漠地域に住む指定部族への農業指導を用いた農村開発事業



ネパール大地震被災者への有機農業研修

## インド干ばつ地域での飲料水確保のための井戸再生事業

■活動地域：インド マディヤ・プラデーシュ州ジャブア郡

■助成期間(年)：1

慢性的な水不足に悩まされているインド中西部の3村で、古井戸6基を再掘削し、井戸周辺に砂塵混入を防ぐ防護壁を設置することで再生を図りました。再生の結果、通年で井戸水の利用が可能になり、長距離・長時間の水汲み労働が緩和され、地域住民の身体的・精神的なストレスが減少しました。また、井戸管理研修を4回実施し、再生された井戸が長期間利用できるように、住民の井戸へのオーナーシップを高めながら、維持管理方法の指導を行いました。加えて研修では、衛生を含む環境教育も実施したことで、住民の衛生と環境保全への意識が向上し、住民自らが井戸管理委員会を立ち上げ、水環境保全を含む井戸利用のための覚書を策定しました。

井戸が再生されたことで、様々な地域課題(飲料水、衛生、環境、ジェンダー、児童労働、栄養不足、住民の結束力など)に対してのプラスの効果が見られたことから、水問題の解決を図る活動の重要性を痛感しました。

- 活動回数 / 10回
- 活動参加人数 / 141人
- 受益者数 / 800人
- 衛生教育 / 141人
- 井戸再生 / 6基

### 現地の声

#### <団体スタッフ>

多くの住民が水の重要性を改めて痛感しました。その結果、住民の再生された井戸への想いは強く、少しでも長く利用できるように自ら井戸維持管理のための覚書を策定するなどの自発性が芽生えました。

#### <受益者>

- ・利用できる井戸が近くにあるだけで、安心度や希望が増しました。
- ・遠隔地への過度な水汲み労働から解放され、身体的・精神的なストレスが軽減しました。
- ・水が出た時、これで生き延びられると思いました。



長老からの聞き取りにより再生する井戸を調査し、決定



古井戸の再生(ダイナマイト破壊後の人力作業)



井戸管理研修は女性も積極的に参加

# 10 認定 NPO 法人 道普請人

海外 [代表者] 木村 亮

「住民自身が実施できるシンプルな工学技術で、開発途上国の人々を幸せにしたい」というコンセプトが原点となり、当団体の理事長である京都大学の木村亮教授により「土のう」による道直し技術が開発されました。この技術の人々の手に届ける移転活動は「自分たちの問題は自分たちで解決する」という意識の芽生えにつながります。この意識を世界に広めるため、2007年に当団体が設立されました。住民が自ら汗を流して、普段利用する自分たちの農村インフラ(農道、橋、給水設備など)の改善を行うことによって、人々の生活環境改善に向けたやる気と自信を引き出します。農村の自発的な開発に向けたきっかけづくりをし、世界の貧困削減に寄与することを目的としています。

## 【土のう工法を用いた道直し】

- ・活動国:27カ国
- ・整備した道路:総延長165km以上

- ・研修・作業参加人数:15,000人以上

- ・土のう工法関連ビジネスのサポート

訓練を受けた若者たちによる施工会社立ち上げのサポートおよび当社が道路維持管理に関する公共事業に参画するビジネスモデルの構築

## 【農村インフラ整備】

- ・急坂部:コンクリート舗装、川横断部:桁橋や沈下橋の設置、給水設備の設置など

## 【その他環境保全】

水源地整備、育苗、植林など



土のうによる道直し作業(ケニア)

## ケニア自然水源の衛生的な利用環境整備と衛生教育

■活動地域：ケニア共和国 ナンディ郡 モンブ準郡 カビサガ地区

■助成期間(年)：1

ケニアの農村では、上下水道が整備されていないため、いまだに多くの住民が池や川など汚染された水源に頼っています。汚染水を利用することによる水因性疾患の発生が絶えず、いかに自然水源を衛生的に利用できるかの対策が急務とされています。

本事業では、ナンディ郡チェブコヨ・コミュニティの既存の水源に、家畜の糞尿や泥の侵入を防ぐ水源保全設備を整備し、周辺住民の生活用水取水用の蛇口および家畜の水飲み場の分離を実現しました。その結果、住民や周辺小学校、診療所、教会などが安全な水にアクセスできるようになりました。今後整備した施設は住民代表からなる水・衛生管理委員会が維持管理し、不良が生じた際は郡政府に連絡するという体制が整いました。また、地域の集水性を高めるための植林、チェブコヨ内の4小学校における衛生教育、住民との水源保全や水利用ワークショップなど、コミュニティ全体を巻き込んだ住民参加型の事業となりました。

- 活動回数 / 10回
- 活動参加人数 / 1,377人
- 受益者数 / 750人
- 衛生教育 / 889人
- 植樹 / 1,500本(オレア・アフリカーナなど在庫9種)
- 水源保全設備 / 1基
- 小学校衛生設備資材調達(手洗いタンク、掃除用具など) / 4箇所

### 現地の声

#### <団体スタッフ>

本事業では給水、衛生、環境保全と地域が抱える様々な課題に取り組みました。どの活動も住民や小学生からの積極的な参加が見られ、楽しみながら事業を実施することができました。

#### <受益者>

- ・小学校に提供された手洗い用タンクで、トイレの後や食前に手を洗うという習慣が根付きました。また、校内での植林による環境向上について感謝いたします。
- ・衛生レクチャーが終わってからは手洗いをしないことによる病気で病院に行った生徒は一人もいません。昼食後にはいつも整備された水源に水を汲みに行っています。木を植えることによって環境がよくなり、新鮮な気分になりました。



住民主導の水源整備作業



ムルト小学校での衛生教育



地域のみんで植林活動



# 11 NPO 法人 白神山地を守る会

国内 [代表者] 永井 雄人

当会は、白神山地のブナの森の復元・再生活動を実施する団体として、1993年白神山地が世界遺産登録した年に発足しました。白神山地では、世界遺産登録の前にブナの伐採があり、現在もかなりの箇所でも木々が失われた状態となっています。白神山地の自然遺産を次世代に残していく為に、ブナなどの広葉樹の苗木づくりを行い、植林活動に取り組んでいます。また、自然保全の活動を理解してもらうためのガイドや環境教育活動を実施しています。

- 「白神山地エコロジー体験ツアー」の実施  
毎年春・夏・秋に開催。白神山地の自然を学び、体験しながら歩くトレッキングツアー
- 「森の復元活動」の実施  
ブナの苗木を植林し、ブナの森を復元・再生する活動
- ボランティアガイド養成講座の推進
- 個々の白神山地の自然体験・登山のコーディネイトおよびガイド派遣
- 白神山地エコロジー講座(環境教育)の実施
- 「白神山地を守る会ニュースレター」の発行  
季節毎の白神山地に関する情報や、イベント情報の発信
- 白神山地に関する書籍などの紹介、販売



白神植樹祭での活動

## 白神山地の最大の恵である良質な水を保全・活用する活動

■活動地域：青森県西津軽郡 ■助成期間(年)：1 2

白神山地に降った雨は、地表を覆う厚いブナの葉土に貯えられ、長い年月をかけて地下に浸透します。そして清らかな水となって再び地表に湧き出し、森に棲む全ての命を育てています。白神山地への植林はこの恵の水を守る活動でもあります。

今年は種が豊作となり、ブナは1万粒、イタヤカエデは1,000粒ほど採取することができました。秋には種拾いに奔走し、秋蒔きをしました。また、苗床の草刈り、苗の掘り起こし作業、植林活動など年間を通じてとても忙しく活動を展開しました。4回実施した植樹祭には300名が参加し、500本のブナ・ミズナラ・イタヤカエデを植林することができました。その他低木のオオバクロモジや間伐したスギから精油づくりも実施しています。

台風で一部はがれたビニールハウスを修理し、2019年の春にはマルチトレーコンテナで春蒔きを行い、次の植林に使う苗を育てていきます。

- 活動回数 / 26回
- 活動参加人数 / 700人
- ゴミの回収量 / 150kg
- 植樹 / 500本 (ブナ・ミズナラ・イタヤカエデ)
- 整備した面積 / 1,000㎡

### 現地の声

<団体代表>  
自然を相手にしている活動なので、上手く種をつけることは容易ではありませんが、不作の年が続いた後、昨年はブナ等の大量の種子を収穫することができました。これは7年以上の苗木確保につながります。長いスパンで物事を見ていくことの必要性を実感しました。

<参加者>  
一度は行ってみたいと思っていた観覧会に参加し、改めて白神山地の大きさを認識しました。参加した皆さんの胸に、代表の方の白神山地愛、ブナ林愛、郷土愛が熱く届いたと思います。植樹したブナが無事に育っているかをまた見に行きたいと思っています。



種拾い



ブナの秋蒔き



ビニールハウスづくり

# 12 宮城県淡水魚類研究会

国内 [代表者] 棟方 有宗

東北地方最大の都市である仙台市は、広瀬川の中～下流域に市街地が形成されており、広瀬川やそこから平野部に分岐した疏水網との関係の中で、水と緑の深い文化が発展してきました。広瀬川には稀少サケ類であるサクラマスが遡上し、平野部の疏水網にはかつては野生メダカが見られました。しかし、水源機能の低下や取水によって広瀬川のサクラマスは減少し、東日本大震災に伴う津波以降は野生メダカも見られなくなりました。また、市民も水文化から遠ざかっています。こうした変化の中で、宮城教育大学など、地域にある組織の有志が当団体を設立し、河川の魚類などとの関係を通して水環境や水文化の復権を目指す活動を展開しています。

- 【広瀬川水系に生息する稀少魚類などの保全を通じた水環境・水文化の復権活動】
- 広瀬川に生息するサクラマスの生態を電波発信機による行動解析手法(バイオテレメトリー)によって明らかにし、発眼卵の孵化放流や河川整備活動に還元する
  - 東日本大震災によって壊滅的被害を受けた野生メダカの生息域の復活のため、メダカの里親を集めるとともに、メダカが生息できるきれいな田んぼをつくり、メダカ米を栽培する



広瀬川源流域の観覧会

## 仙台市民とともに醸成する水文化復権の流れ

■活動地域：宮城県仙台市 ■助成期間(年)：1 2 3

広瀬川とその疏水網の下流域にある宮城野区新浜地区に、田んぼとメダカビオトープからなる「カントリーパーク新浜」を新設し、震災で絶滅した井土メダカの個体群の再建と農業不使用のメダカ米の栽培を開始しました。また、仙台市立八木山小学校にも水域の利用啓発のためのビオトープを造成し、八木山動物公園、3.11メモリアル交流館と連携して疏水網やメダカの啓発のためのイベントを実施しました。今後に向けて、流域に設置されている堰堤に簡易魚道を設置するための事前調査および行政との協働事業を立案しています。今後は、学校や里親を当活動のサポーターとして、さらなる水文化の復権と保全に取り組みたいと思います。

- 活動回数 / 21回
- 活動参加人数 / 440人
- 整備した面積 / 8,000㎡

### 現地の声

<参加者>  
・動物公園と協働でメダカの保全活動を行ったことで、メダカの里親になりました。水替えや餌やりで楽しくなりました。  
・本物の野生メダカを見たのは初めてです。自分の学校にこうした設備ができたのは自慢になります。



八木山動物公園で実施したメダカ里親の交流会



仙台農業園芸センターにおけるメダカ放流



田んぼビオトープの稲刈り



# 13 NPO 環～WA

国内 [代表者] 大和 文子

地域の未来は、地域に生きる人づくりにかかっていると考え、荒廃した里山の保全と資源の利活用、フィールド体験を通じた地域人材育成を目的として当団体を2013年に設立しました。

設立から6年が経過し、保全した土地は6haにまで広がりました。森・水・土・エネルギー・食をテーマとした多様なプログラムを実践し、ネットワークを拡大。ボランティア活動の他、若者たちによる自主事業の場を提供したり、自治体の史跡保全を通じた地域住民への意識啓発を実践するなど、地域密着型の取り組みを展開しています。

- 山林および農地の保全
- 地元史跡の保全・整備、地域観光資源の発掘
- 循環型農業と養鶏、オーガニック手前味噌づくり
- 自然エネルギーの運用
- 多目的シェアスペース開設（若者による新規事業への協力）
- シンポジウムや講演会主催・講演、ワークショップ開催
- 県内中学校向け環境教育用の教材制作
- シングルマザー家庭向け里山体験の実施
- 中国企業の研修受け入れ



休耕田で稲作を復活！地下水利用、おたがけ方式で稲わらをつくり畑や鶏舎の敷き藁に

## 1300年の里山の歴史を未来へ

■活動地域：茨城県茨城町 ■助成期間（年）：1 2

室町時代に築城された町指定史跡「小幡城跡」～国指定文化財「小幡北山埴輪製作遺跡」を結ぶ道は荒れた土塁で阻まれていましたが、当団体からの呼びかけで始まった保全整備によって開通され、地元民が歩き、観光客が自転車で行き交う里山散策ルートとなりました。また、これまでの取り組み実績と里山マップをまとめたパネルとパンフレット（日本語版・英語版）を制作し、県内外のみならず海外からの里山体験者を受け入れる基盤を整えました。里山と人をつなぐ場所としてセルフリノベーションした築50年の納屋には、間伐材や駆除竹をふんだんに使用し、薪ストーブ、ペレットストーブ、ピザ窯を備えました。この納屋で、当団体の取り組みに賛同し、自然農を実践する若者たちが週末限定の「オーガニックマルシェカフェ」をオープンし、子どもからシニア層までの広い世代が集い、里山の自然循環を楽しんでいます。

- 活動回数 / 26 回
- 活動参加人数 / 1,236 人
- うちTOTOGグループ社員 / 39 人
- 植物駆除 / 5㎡（竹）
- 整備した面積 / 60,000㎡

### 現地の声

<参加者>  
 ・小幡城が見違えるように整備され、誇れる地域の史跡になりました。  
 ・竹林整備をして竹の子を収穫したり、雑木林を整備して原木椎茸を育てる貴重な経験ができました。  
 ・森・土・水・エネルギーの全体を一度に体験できる場は極めて希少だと思います。  
 ・体験実習は体力的に厳しかったが、学びややりがい、喜びに満ちた授業でした。  
 ・「オーガニック」を流行でなく、本質的に考える場がここにあります。



国指定遺跡「小幡北山埴輪製作遺跡」周辺の人工林で森林整備実習



史跡めぐるルート沿いの雑木林を整備し、原木を採り、椎茸を植菌



日本語版、英語版のパンフレット制作

# 14 わたらせ未来基金

国内 [代表者] 青木 章彦

当団体は、歴史上の経緯から生き物たちの楽園・自然の宝庫となった渡良瀬遊水池を「ラムサール条約登録湿地にすること」および「渡良瀬遊水池エコミュージアム・プランを実現するための活動を実施していくこと」を目的として2001年に発足しました。

ラムサール条約登録については、他の諸団体と渡良瀬遊水池の治水推進派との合意を得て7年前に実現に至りました。現在は渡良瀬遊水池の現状を調べつつ、将来の有り方について国土交通省への提言を行うなど、より良い方向性を模索しながら活動を実施しています。

- 低層湿原の環境保全作業  
外来植物・遷移を進める植物を除去し必要な環境のみ残す。
- 環境学習フィールドにおける水生生物調査
- 古河市菊まつり・野木町きりりフェスタ祭りへの参加  
活動紹介およびヨシ刈りによって作られた腐葉土を販売、副賞として寄贈
- 足尾山地の緑化・植樹（育林による渡良瀬川流域回復）
- 第1回市民フォーラム開催  
4市2町で市民レベルでの意見交換により、渡良瀬遊水池の将来像・あるべき姿について国・自治体への提言書をまとめ、総括としてシンポジウムを開催



小山市お魚わいわい大作戦

## 渡良瀬川が繋ぐ上・下流域環境保全再生プロジェクト

■活動地域：栃木県、群馬県、埼玉県、茨城県 ■助成期間（年）：1 2 3

渡良瀬川上流の足尾山地と下流にある低層湿原の渡良瀬遊水池は、線と面でつながっています。第1次植樹地には、鹿避けネットおよび侵入防止用柵を取り外し、個々の木に樹脂ネットを巻き付ける作業を実施しました。また、1か所で4本前後の木を植える「寄せ植え方式」による植樹を新たに4か所で実施し、昨年の実施と合わせて植樹場所は7か所となりました。いずれも順調に生育しています。

渡良瀬遊水池の湿地保全再生については、一年を通し、

- ・湿地の在来植物保全のため、外来植物除去
- ・国土交通省、小山市が作成した人為攪乱型実験地で繁茂したガマの部分除去
- ・第2回生きもの見つけ大作戦（外来魚除去）
- ・ヨシ原環境を考えるヨシ刈り
- ・屋敷林の生態系を守る防火帯作り
- ・ゴミを燃やさないクリーン作戦

などの活動を実施しました。これらの活動が認められ、「国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）」が推薦する事業として認定されました。



タモ網を使用し池の生きものを捕獲、外来魚がいれば除去



生物多様性のため、ヨシ焼きから屋敷林を保全



足尾山地での緑化、700段の階段を登り植樹

- 活動回数 / 43 回
- 活動参加人数 / 2,501 人
- うちTOTOGグループ社員 / 6 人
- ゴミ回収量 / 3,500kg
- 植樹 / 45 本（ミズナラ・コナラ・クヌギ・シラガシ・カエデ）
- 整備した面積 / 1,800㎡（防火帯）
- 動植物駆除 / 外来魚 372 匹、アメリカザリガニ 241 匹、ヤナギ 2119 本、セイタカ 669 本（植物除去全般 205kg）他

### 現地の声

<団体代表>  
 湿地保全の取り組みは、外来動植物の除去活動、ヨシ刈り、ヨシ焼きによる保全活動など多岐にわたりますが、生物多様性の維持に継続して取り組んでいきます。また、上流での緑化活動により、渡良瀬川を確かな清流にして、遊水池が恩恵をもたらされるよう実践していきます。  
 <参加者>  
 ・伐採したヨシを使ったオブジェに光を灯す「ヨシ灯り」は、とても有意義な体験となりました。  
 ・ヨシ収穫に関わり、自分に何ができるか考え、頑張ります。



# 15 八千代市ほたるの里づくり実行委員会

国内 [代表者] 金室 彰

ほたるの里づくり実行委員会は、生き物を通して自然の仕組みを理解し、共生するために、ホタルをはじめとした多様な生物の生息環境づくりを市民・企業・八千代市とのグランドワーク方式で実施しています。1998年から活動を開始し、20年が経ちました。昔は里の周辺の田んぼでヘイケボタルの飛翔が見られましたが、圃場整備などの影響で絶滅しました。八千代市内のヘイケボタルの再生を願い、里が多様な生物の生息の場となることを目指して活動しています。2015年には当地が「生物多様性保全上重要な里地里山」(環境省)に選定されており、次世代の子どもたちにつなぐ場であることを心に留めて今後も活動していきます。

- 里の環境整備 (月1回程度)
- 夜の生き物観察会 (年1回)
- ザリガニ釣り大会 (年1回)
- ほたるの里だよりの発行 (年3回)
- ほたるの里環境作品展 (年1回)
- イベントなどでの活動紹介



夏の夜の生き物探検

## 生物多様性の基地として～目指そうホタルの自生～

■活動地域：千葉県八千代市 ■助成期間 (年)： 1 2 3

都市化が進み自然環境が変化する状況で、特に水辺の生物が生息できる環境づくりは、生物にとっても重要です。また、次世代の子どもたちが、生物に触れ、自然環境を学ぶ体験の場としても重要な取り組みだと思っています。

- 2018年度は、
- ・湿地に木道を設置し、生き物への配慮をした「生き物調査」
  - ・「ザリガニの駆除」を継続
  - ・「ホタルの飛翔調査」を約40日間継続
  - ・生き物への関心を持ってもらう啓発プログラム「おやこ生き物探検隊」
  - ・水路整備
- などを実施し、私たちが目指す「ホタルの自生と多様な生物(主に水辺の生き物)が住める里づくり」の活動に拍車がかかりました。

- 活動回数 / 20回
- 活動参加人数 / 385人
- うちTOTOグループ社員 / 36人
- 動物駆除 / 3,505匹 (アメリカザリガニ)
- 整備した面積 / 3,300㎡

### 現地の声

<団体代表>  
当団体が設立して20年が経過しました。木々が茂り緑が豊かになりましたが、多様な生物が住める環境をつくるための草木や水辺の環境管理について、生き物の視点で考え、学びながらこれからも活動を継続していきたいと思っています。

<参加者>  
ほたるの里の環境は「心が和む場所」として足を運んでいましたが、活動に参加するようになって、それが楽しみにもなりました。この環境を次世代へ残していきたいです。



おやこ生き物探検隊



湿地に木道を作成



湿地の田植え

# 16 NPO 法人 森のライフスタイル研究所

国内 [代表者] 竹垣 英信

森林と触れ合った体験が乏しく、森づくりへの理解が深まっていない多くの人々に対して、楽しさを取り入れた多彩な活動を展開するために、2003年に設立しました。ごく普通の人々が当たり前のように森づくりに関心を持てる社会を創造し、もって、森林の育成・保全に寄与することを目指して活動を行っています。

- 都市住民と山間地域の住民との連携・協力による森林の育成と保全活動および森林学習
  - 森づくりのコンテンツを活かした企業の社会貢献活動を促進させるためのプログラム提供
  - シングル世帯への野外体験活動の参加機会の提供
- <主な実績>
- ・ 山火事によって消失した山林の再生(長野県東御市)
  - ・ 手入れ不足となり照葉樹林化している里山の再生(東京都八王子市)
  - ・ 津波の被害で枯れてしまった千葉県山武市殿下海岸林の再生(千葉県山武市)



山火事跡地をどんぐりのできる木々を植林しながら再生

## 千葉県九十九里海岸防災林の再生～海岸林の機能強化をめざして

■活動地域：千葉県山武市 ■助成期間 (年)： 1 2 3

3.11の津波による塩害によって失われた千葉県九十九里浜(蓮沼殿下海岸)の防災林を元に戻すために、2012年度から植林を続けています。

2018年度も、延べ286名のボランティア参加のもと、5回の活動を行いました。

活動の結果、これまで育ててきた37,000㎡・37,000本の苗木周りの下草刈りとともに、新たに2,000㎡・2,000本もの植林を行うことができ、海岸林の公益的機能の強化に強く貢献できました。

- 活動回数 / 5回
- 活動参加人数 / 286人
- うちTOTOグループ社員 / 69人
- 植樹 / 2,000本 (抵抗性クロマツ)
- 整備した面積 / 39,000㎡

### 現地の声

<団体代表>  
多くのボランティアの皆さんに参加していただける活動になっていることをとても誇らしく思っています。また、植えた苗木がきちんと育ち、青々とした海岸林になっていることも、活動結果として胸を張ることができます。これに甘んじず、まだまだ続く海岸林での活動を、国土の保全につながるものとして行っていきます。

<参加者>

- ・ボランティアに参加されている方々の一生懸命な姿に感銘を受けています。
- ・今回は家族で参加しました。家族で同じ貢献活動ができるのが素晴らしいと思っています。



暑い中、実施した草刈り



1本1本丁寧に苗木植え



いろんな人たちが参加している海岸林再生ボランティア



# 17 白子川源流・水辺の会

国内 [代表者] 菅沢 博

白子川の源流域(練馬区立大泉井頭公園内)は、東京23区内でも稀有な湧水が多く見られ、絶滅危惧種のホトケドジョウをはじめ多種多様な生物が生息する貴重な水辺環境となっています。

白子川源流・水辺の会は、当エリアの自然環境の保全・回復を図ることを目的に2001年6月に設立され、以来20年近くにわたって水質・生物・植物調査と川の清掃などの定例活動、近隣小学校の総合学習への支援活動を続けてきました。また、水辺のある暮らしの楽しさ、豊かさを地域住民と共有する「白子川源流まつり」の開催など各種啓発にも取り組み、活動を通して、地域の多くの方々が「湧水のある町大泉」を実感できることを目指しています。

- 定例活動(川の清掃・草刈り、水生動植物の生態調査)
- 近隣小学校の総合学習への支援活動(講師派遣、川体験の実施)
- 「白子川源流まつり」の開催(環境啓発、地域の交流)
- その他  
アユの放流、他団体が主催するイベントへ出前講座・出張・講演会の開催、環境学習用冊子の刊行など



小学校自然環境教育

## 白子川源流域の湧水量と水質の回復による水辺環境の再生

■活動地域：東京都練馬区 ■助成期間(年)：1 2 3

2018年12月に練馬区が公表した「みどりの総合計画」の改定素案において、「水辺空間の創出」をテーマに「大泉井頭公園(白子川源流部)の拡張工事に着手する」と明示されたことから、2018年度は源流域の緑地環境が一変することが決定づけられた年となりました。

白子川の源流部に巨大な調節池の設置が盛り込まれた東京都の「白子川河川整備計画」と「みどりの総合計画」を表裏一体としてとらえ、まちづくりの観点から新たな緑地環境の構築に取り組むべく、その対応に多くの時間とエネルギーを費やした一年となりました。

今年度は、定例活動や「白子川源流まつり」、環境学習支援などの一般市民が参加する活動に加え、長年の懸案であったホームページの改訂、小学生を読者対象とした冊子「みんなの白子川」の発行、講演会の開催などの充実した取り組みを実現することができました。

今後想定される行政との協働作業のための組織力強化と情報収集力の拡充につながる活動となりました。

- 活動回数 / 37回
- 活動参加人数 / 1,645人
- うちTOTOグループ社員 / 110人
- ゴミの回収量 / 110袋 (70ℓゴミ袋)
- 植樹 / 250本 (ヘデラ・ミツガシワ)
- 植物駆除 / 80袋 (90ℓゴミ袋、ウキヤガラなど)

### 現地の声

<団体代表>  
月1回の定例活動における水生動植物との触れ合いにおいて、一般の参加者にザリガニを見たことがない人が意外に多いことに驚きます。大人は、おっかなびっくりしながら小さなザリガニを手のひらに乗せると、怖がりながらも楽しんでいる様子うかがえました。図鑑でしか見たことのない子どもたちは、自分が知っているザリガニとは違うと言います。色や形が違って同じザリガニだと知ったときの意外そうな顔が印象的でした。



伸びすぎた水草刈り①



伸びすぎた水草刈り②



みんなで記念写真

# 18 DEXTE-K (でいくてっく)

国内 [代表者] 橋爪 慶介

変遷していくスピードの時代に対応していくためには、従来型の一つ一つの「建築」を個々に考え築きあげていくよりも、知識人達や優秀な「ものづくり」の心と技を持つ職人達との人脈ネットワークを利用し、新しいライフスタイルや建築空間のあり方などを提案したり、将来の方向性を探るコンサルティング組織(シンクタンク)が社会に対して必要ではないかと考え、2007年11月に「建築系シンクタンク」として当団体は発足しました。

「半歩先の都市型のライフスタイルを考察しています」をキャッチコピーとして、環境保全、減災活動、地域まちづくりをテーマにプロボノ活動を展開しています。

- 【建築技術コンサルティング】
  - 建築専門誌への執筆
  - 若手技術者育成などコンサルタントとしての活動
- 【まちづくり支援、空間プロデュース】
  - 「都市と自然との共生」の考察
  - 都市型ライフスタイルの空間プロデュース
  - 江戸川区子ども未来館 区民ティーチャー&ボランティア 他



首都圏外殻放水路(江戸川区子ども未来館川ゼミ)

## 西なぎさ発:東京里海エイド

■活動地域：東京都江戸川区 ■助成期間(年)：1 2 3

葛西臨海公園西なぎさは、都心にある希少な干潟であり、生物多様性に富んだ「自然と都市の共存」の象徴的な場所です。2018年10月には西なぎさを含む葛西臨海公園がラムサール条約の湿地に登録されました。

「西なぎさ発:東京里海エイド」の活動は、葛西の干潟でこれまでに最も多くの漂着ごみを収集している活動です。市民活動化してから9年目となった2018年度の活動では、総参加者数が473名となり、目標の400名に達しました。複数の組織・団体の参加やご協力が継続的にあったからこそ実現できたものと考えています。

この活動を通して、葛西地区の干潟の希少性と漂着ごみの社会問題についての認識がいつそう広がっていくことを期待しています。

- 活動回数 / 11回
- 活動参加人数 / 473人
- うちTOTOグループ社員 / 101人
- ゴミの回収量 / 904kg
- 整備した面積 / 30,000㎡

### 現地の声

<参加者>  
・一見そんなにゴミはなさそうでしたが、いざゴミ拾いをしてみるとかなりの量があつて驚きました。またこのようなボランティアに参加したいと思います。  
・ビニール袋の破片や食品の入れ物の破片など、身近なものがゴミとして浜にあり、日頃の生活でゴミをきちんとゴミ箱へ入れることやゴミを出さないことの重要性を感じました。  
・社会で現在問題になっている分解できないプラスチック片が実際にこんなに落ちていることに驚きました。



西なぎさ ビーチクリーン①



西なぎさ ビーチクリーン②



西なぎさ発 東京里海エイド



# 19 NPO 法人 海の森・山の森事務局

国内 [代表者] 豊田 直之

プラスチックを中心とするゴミがどれだけ河川を通じて海洋に流出しているのか、私たちの生活排水がどれだけ海に影響を与えているのか、私たちの出したゴミで海の生き物たちがどんなダメージを受けているのか…。当団体は環境保全活動を実践しながら、これらのことを写真展、ビジュアルトークショー(講演)、ビジュアルコンサート(映像と音楽とのコラボレーション)、デジタル紙芝居(映像と読み聞かせとのコラボレーション)などで次世代を担う子どもたちに伝え、環境保全の必要性を普及啓発しています。2008年に活動を開始し、2012年にNPO法人となりました。

- ダイバーによる城ヶ島海底清掃 2回実施(イオン環境財団環境助成事業)
- ダイバーによる茅ヶ崎海底清掃 2回実施(イオン環境財団環境助成事業)
- 大岡川川底清掃 2回実施(イオン環境財団環境助成事業)
- 釣り人とダイバーによる城ヶ島プラスチックゴミ撲滅大作戦 2回実施(セブン-イレブン記念財団助成事業)



ダイバーによる茅ヶ崎海底清掃

## 独自メディアで発信！大岡川クリーンアップ大作戦

■活動地域：神奈川県横浜市 ■助成期間(年)：1 2 3

ゴミ拾いは、悪天候などで中止した回があったものの、ほぼ予定通り、事故や参加者の怪我などのトラブルも一切なく終わることができました。回収したゴミも、きちんと横浜市のルールに従って分別し、横浜市資源循環局のご協力も得て処理できました。

今年度の活動で特筆すべきは、市内南区の日枝小学校に出前授業を行った後、4年生の子どもたちが私たちのゴミ拾い活動に継続的に参加してくれたことです。また、授業でもそのゴミの分析などを行い、いろいろな場所で一緒に活動報告ができました。その結果として、新聞やラジオ、テレビニュースなどでも大きく取り扱っていただき、活動が大きくPRされました。横浜乳業、日本製紙、パタゴニア横浜関内ストア、目白大学人間学部教育学科など、企業や大学との連携も生まれ、活動に幅が出てきました。

- 活動回数 / 34回
- 活動参加人数 / 2,414人
- うちTOTOGグループ社員 / 8人
- ゴミの回収量 / 698kg

### 現地の声

<参加者>  
 ・今の時代、川にゴミを捨てる人なんかいないと思込んでいたので、活動に参加するまでどうしてこんな量のゴミが集まるのか、全くわかりませんでした。しかし、活動を通じて、確かにゴミを捨てる不届き者もいるけれども、それよりも私たちのゴミの出し方、ゴミに対する意識の欠如が、結果的にはゴミを風や雨で流出させていること、また川から海に流れ出ているゴミも半端な量ではないことを痛感させられました。  
 ・子どもたちの大岡川のゴミについての発表を聞いて感動しました。草の根活動とも言えるこの活動は大切なことですね。活動を応援したいです、まずはゴミ拾いにも参加してみようと思います。



大岡川 PGT 大作戦



大岡川源流域・氷取沢での環境出前授業



甞れ大岡川大作戦！ 顔末写真展

# 20 金山里山の会

国内 [代表者] 前川 修

射水市南部丘陵地の里山においては、30～50年間木が利用されなくなったため、高い木が生い茂り荒廃が進んでいます。原生林化した里山は光・風が入らず、新たな樹木も育たない環境となっており、猪や熊が出る奥山となってしまいました。そこで昔のように豊かな里山に再生すべく、2012年に当会を発足しました。活動として、間伐を実施、伐採した木を薪・茸原木に利用することで広葉樹林に広く光を取り込んで光合成を促進し、保水機能の豊かな涵養林の形成・拡大を図っています。

- 森林整備および森林空間の利活用  
涵養林の里山における不要木の除間伐、チップロード(林道)の整備、キノコ生息地探索、森づくり勉強会の開催
- 木竹・キノコなどの森林資源の利活用  
除伐した木を活用し、薪生産、茸菌を植菌した茸生産の実施
- 環境啓発活動  
「里山林の必要性」についての研修会、里山実務研修会などの開催(対象：金山小学校の児童、富山県立大学生、地域内の方、TOTO社員)



県立大学意見交換会

## 水と緑の輝く里山プロジェクト

■活動地域：富山県射水市 ■助成期間(年)：1 2 3

水と緑に輝く里山プロジェクトは、活動を始めて7年を経過し、着実に進展しています。間伐材をエネルギーとして薪に利用することや椎茸栽培の原木として活用する仕組みは、里山と人間が共存する持続可能な取り組みへと進展してきました。また、その活動のフィールドは学習の場にもなっています。

里山環境保全への認知度は、地元住民やその他の地区の人々にも広がっています。今後は、里山の保全を活用した学習や健康増進の場として活動フィールドの提供を広げて行くことを考えています。

- 活動回数 / 66回
- 活動参加人数 / 436人
- うちTOTOGグループ社員 / 38人
- 整備した面積 / 6,500㎡
- 椎茸原木製作 / 399本
- 薪生産 / 21㎡

### 現地の声

<団体代表>  
 会員数の拡大や地域での活動に対する認知度の広がり、整備活動から地域活性化への進展を含め、私たちが長年取り組んできた里山環境保全への認識が広がってきました。里山での体験学習で初めてチェーンソーを使った子どもたちは「できるか心配だったけど、上手くできました」と喜んでいました。



チェーンソーの使用体験



原木への椎茸菌植付け



里山活動体験研修



私たちの里山である大富山は、貴重な動植物の宝庫となっています。当会は、2013年からこの自然の宝の山をふるさとの山として大切に守っていくことを目指して、中心を通る美佐野街道の整備や湿地の保全活動を始めました。山中には準絶滅危種のシデコブシやハナノキなどが多く自生していることから、その保護・育成にも力を入れています。さらに山の魅力向上を狙ってホタルを飛ばすことを目標の一つに加えるなど活動の領域も広がってきています。

- 湿地林、湧水湿地の保全
- 美佐野街道および古墳周辺整備
- 美佐野街道周辺への植樹(桜・紅葉など)
- 地域住民交流会の開催
- 大富山の自然を紹介する案内看板の設置、チラシの配布



恒例の「歩こう会」。講師の説明を聞き古墳へ

## 大富山湿地の涵養と保護及び美佐野街道ふれあいの場所整備

■活動地域：岐阜県土岐市

■助成期間(年)：1 2 3

大富山に自生するシデコブシなどの貴重な動植物を保護し育てていくために、シデコブシ密生地でシデコブシの生育を妨げている樹木を伐採するなどの環境保全活動を行うとともに、地区内を通る美佐野街道の草刈りや維持補修活動を実施しています。

また、昨年よりホタルの飼育、放流活動を始めており、ホタルが飛び交う深流になることを目指しています。このような活動を通して、より多くの人が大富山を訪れ、四季を楽しみながら美佐野街道を散策できる自然環境づくりを進めています。

これらの活動を継続して実施してきた結果、大富山や美佐野街道に関心を持ったり、散策に訪れる人々が増えています。また、近隣の地区から同様の活動団体を作れないかとの声も聞かれ始めています。

- 活動回数 / 13回
- 活動参加人数 / 376人
- うちTOTOGROUP社員 / 67人
- 植樹 / 45本(紅葉・桜)
- 整備した面積 / 1,000㎡
- ホタルの幼虫の放流 / 約100匹

### 現地の声

<団体代表>

美佐野街道の自然を感じてもらうためのイベント「歩こう会」に参加した人々からは、身近にこんな素晴らしい環境があることを知らなかったという声が聞かれました。また、自治会活動以外にも会の活動に参加することで、地域住民としての連帯感を感じられるようになってきています。



美佐野街道の途中にある古墳入口の階段を補修整備



定例の美佐野街道の草刈り



半年間育てたホタル幼虫の放流

当団体は、「びわ湖をきれいにするにはまず地元の川から」を合言葉に、ゴミのない自然環境に恵まれた家棟川を取り戻すことを目指して2007年に設立されました。流域のゴミ拾い活動を通じて、ゴミをなくすためには広く市民の方々に家棟川の実態を知ってもらう必要があると考え、県内外の人々に家棟川とびわ湖の現状を知ってもらう「環境と観光の融合」と活動の幅を広げてきました。さらに2011年からは、家棟川の生態回廊の再生を目的とした流域の魚類の調査を始め、現在はその成果を踏まえて、ビワマスシンボルとして川の環境保全やまちづくりを図るプロジェクトに取り組んでいます。

- 市民・行政・企業などとの協働によるびわ湖・家棟川流域の清掃
- 家棟川エコ遊覧船の運航  
手漕ぎの遊覧船を使った自然体験、船頭の語りによる環境および地域の歴史学習、湖魚を使った伝統食「漁師料理」の提供
- 家棟川の生態調査および外来魚の駆除
- 水源の森における植樹
- びわ湖あやめ浜におけるヨシ苗の植栽



びわ湖あやめ浜のヨシ植え

## 家棟川・童子川・中ノ池川にビワマスを戻すプロジェクト

■活動地域：滋賀県野洲市

■助成期間(年)：1 2 3

昨年設置した魚道において、1段目の落差の解消のため半円形水槽を取り付け、ビワマスが魚道に進入しやすいように改良しました。その結果、初めてビワマス1匹が魚道をジャンプして落差工の上流部へ遡上する姿を確認できました。また、昨年造成した産卵床を整備、新たに砂利を投入して拡幅を行い、今年3月には稚魚13匹の生息が確認できました。

当プロジェクトは、市民・事業者・専門家・行政機関が協働して取り組んでおり、関係者が集まって開催される報告会「ビワマスフォーラム」においては、これまでの活動報告の他、参加者自身の環境との関わりについて考えるワークショップや、ビワマスを活かしたこれからのまちづくりについての活発な意見交換が行われ、有意義なフォーラムとなりました。

- 活動回数 / 23回
- 活動参加人数 / 1,738人
- うちTOTOGROUP社員 / 43人
- ゴミの回収量 / 1,170kg
- 植樹 / 300本(コナラ)
- 動物駆除 / 5匹(ブラックバス・ブルーギル)

### 現地の声

<参加者>

- ・素晴らしい活動であり、今まで知らなかったこともよく分かって参考になりました。
- ・フォーラムをきっかけにびわ湖の環境について勉強しました。活動にも参加させていただきたいです。
- ・野洲市の取り組みは素晴らしいです。大いに刺激となりました。今後がとても楽しみです。
- ・川の上流にも目を向けていく必要があります。野洲市民がゴミを捨てなくとも上流に住む住民にも注意喚起が必要です。
- ・同じ市内にいても学区が違うとこの取り組みを知らない人が多いので、一般の方々へもっと周知をお願いしたいです。
- ・中学生や高校生を呼び込めるとさらに未来へつなげる行事、取り組みになると思います。



産卵床の造成作業



鉄骨改良型魚道の設置



ビワマスフォーラム



23

# 川と海つながり共創プロジェクト

国内

【代表者】 塚本 政雄

亀岡市を貫流する保津川は、国内で2箇所だけしか生息が確認されていない国の天然記念物アユモドキに代表される豊かな生態系を持つ川であるとともに、保津川くんだりや嵯峨野トロッコ列車など、地域の重要な観光資源でもあります。2012年には、内陸部では国内初開催となる「第10回海ごみサミット2012亀岡保津川会議」を開催し、内陸部からのゴミの発生抑制対策について議論を行い、「亀岡保津川宣言」と「川のごみや海のごみを考える京都流域宣言」を採択しました。『川と海つながり共創プロジェクト』は、この両宣言を具現化するために、保津川でつながる関係団体が協働で取り組む組織として2013年に設立され、内陸部から海や川のゴミを減らす活動を推進しています。

【こども海ごみ探偵団】

子どもたちが一年を通じて実施する海ゴミの調査活動

- ・舞鶴海岸調査(日本海)
- ・保津川調査
- ・成ヶ島調査(瀬戸内海)

【イベント主催】

「保津川の日」開催

クリーン大作戦、エコラフティング、エコ屋台、凧あげ大会、野鳥観察会などの実践・啓発・交流イベントを実施

【イベント出展】

パネル展示およびワークショップにより、活動PRと川・海ゴミの実態について啓発を実施

- ・「京都環境フェスティバル2018」
- ・「ふるさとLovers2019自然と文化の体験フェスタ」



「保津川の日」 清掃

## 京都・保津川から世界の海を美しく～内陸部から取り組む海ごみ発生抑制プロジェクト

■活動地域：京都府亀岡市

■助成期間（年）： 1 2

豊かな生態系と歴史・文化的景観を有する保津川の流に乘せて、海や川のゴミの削減への思いをつなげる市民参加型プログラムを実施しました。

小・中学生とその保護者を対象とした「こども海ごみ探偵団」(延べ親子44組92名)では、保津川と若狭湾での清掃活動とゴミの組成調査を行い、次代を担う子どもたちに、川と海それぞれのゴミの現状と対策を学ぶ実践的な環境学習を実施しました。また、「保津川の日」(参加者約450名)では、保津川に親しみながら清掃活動を展開し、世界的な環境問題となっている“海ゴミ”が私たちの街を流れる川からも流れ出している身近な問題として考えるべきであることを、広く参加者に発信することができました。

この一連の取り組みの成果は、亀岡市が市議会と共同で実施した、日本初のプラスチック製レジ袋禁止の目標を含む「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」の発表にも寄与しました。

- 活動回数 / 6回
- 活動参加人数 / 1,046人
- うちTOTOGグループ社員 / 4人
- ゴミの回収量 / 1,000kg

### 現地の声

<団体代表>

市民の理解が深まった結果、市内全域に清掃活動が広がり、花火大会やスポーツ大会などの野外イベントにおけるプラゴミ削減の取り組みの拡大にもつながりました。また、他の地域からの視察や各種メディアによる取材・報道が大きく増え、認知度が向上しています。「こども海ごみ探偵団」参加者からは、河川および海岸のゴミ状況を目の当たりにしたことで、海洋汚染が非常に深刻であることや、ゴミの発生抑制の重要性に気づけたという声が多くあがっています。



「こども海ごみ探偵団」成ヶ島清掃・調査



「こども海ごみ探偵団」舞鶴海岸清掃・調査



「保津川の日」ラフティング清掃

24

# NPO法人 ゴミンゴ・ゴミ拾いネットワーク

国内

【代表者】 近藤 潤

当団体は2007年にNPO法人となり、大阪市・藤井寺市などの6つの河川、和歌山市・姫路市の2つの無人島でゴミ拾い活動を行っています。既存のゴミ拾いは、自治会など地域の方を中心としたゴミ拾い活動がほとんどですが、私たちはあえてゆかりのない、ゴミ拾いを行う団体や組織がない場所にも足を運んで活動を行っています。これによってゴミを拾ってくれる人がいない地域の人々が快適な生活環境を享受することができます。一般の参加者にも広く呼び掛けて、一般の方々もゴミ拾いに関わるきっかけを与えたいと考えています。

【川ゴミ拾い】

- ・ゴミンゴ石川：大阪府藤井寺市
- ・ゴミンゴ海老江干潟：大阪市

【島ゴミ拾い】

- ・友ヶ島(和歌山県)
- ・家島(兵庫県)



伝法(淀川)での清掃

## 島ゴミプロジェクト—離島に流れ着く漂着ゴミ拾い—

■活動地域：和歌山県 友ヶ島、兵庫県 家島

■助成期間（年）： 1 2 3

普段の生活では意識することのない島への漂着ゴミ問題。このイベントの参加者は、ゴミが想像以上に漂着していることを目の当たりにして、自らのライフスタイルを再考するきっかけになりました。2018年度は世界的にマイクロプラスチックの問題が大きく提起された年でもあり、参加者の関心の高さを感じました。

活動を始めて12回目を迎えた友ヶ島での活動においては、例年通りゴミが堆積していましたが、目につく大部分のゴミを回収することができました。今年度で2回目の開催となった家島での活動は、参加者の一部は宿泊を伴うイベントとなり、ゴミに対する知識を深めることができました。また島でのレクリエーションとして地引網なども体験でき、単なるゴミ拾いイベントではなく、参加者にとっての付加価値も提供できました。

- 活動回数 / 2回
- 活動参加人数 / 113人
- うちTOTOGグループ社員 / 13人
- ゴミの回収量 / 1,355kg

### 現地の声

<友ヶ島活動参加者>

・あまりのゴミの多さに驚きました。プラスチックゴミに関して考えさせられました。

・和歌山に落ちているゴミをわざわざ都会から来た人たちに拾わせるのは申し訳ないです。来年は地元の友人に声を掛けてみます。

・ゲーム感覚で楽しめました。船から下りたときのきれいな海のキラキラ感と砂浜のゴミとのギャップが衝撃的でした。

<家島活動参加者>

・今まで観光地の海岸しか見たことがなかったのですが、知らない所で海岸がゴミだらけになっていることを知って、ゴミを減らす意識が芽生えました。

・私たちがやらなければいけないことはまだまだあると実感しました。継続することが大事だと感じました。

・チーム対抗のゲームなどで楽しくゴミ拾いのできるのもていいと思いました。



家島ゴミ拾い



家島で回収したゴミ



友ヶ島ゴミ拾い



# 25 NPO 法人 川塾

国内 [代表者] 塩崎 健太

川が暮らしの一部であった頃、そこには子どもたちの姿があり、子どもたちのはしゃぐ声が溢れていました。川で泳ぎ、魚を獲り、それらを食べる。川には楽しいことがたくさんあり、人々はその楽しみを通して川と深くつながっていました。そして川遊びを通して、その土地の人々が昔から培い伝えてきた「川と共に生きる知恵や技術」を伝承していました。しかしそんな「川遊び文化」は、川で子どもたちが遊ばなくなった昨今では失われつつあります。当団体は2010年に設立し、「川と人をつなぐ」をキーワードに自分の暮らしと吉野川の関わりを「川遊び」を通じて感じてもらい、「川遊び文化」を再生し、川と共生する社会を作ることを目的としています。

- 第十堰水辺の教室  
年間通じた吉野川の遊びと文化の体験(しじみ漁体験、干潟観察など)
- 夏の川遊びキャンプ  
河原でテントを張り、自分のやりたい遊びをとことんやりつくすフリーキャンプ(シュノーケリング、金突き、カヌーなど)
- 親子OUTDOORくらぶ はんもつく  
0~5歳児の親子を対象とした川遊び体験(干潟観察、カヌーなど)
- かつぱの川そうじ  
毎月1回、ゴミの多い場所を対象とした河川敷清掃活動
- その他  
吉野川ガイド(下流域)や学校・企業研修などの自然体験や講演などの受け入れ



川遊びののびよ!

## かつぱの川そうじ

■活動地域：徳島県阿波市 ■助成期間(年)： 1 2 3

吉野川は、全国でも有数の自然環境を有し、流域の暮らしや文化、産業の発展を支えています。また、子どもたちの恰好の遊びの場であり、環境や文化を学ぶ場となっています。そんな素晴らしい自然環境を持続可能なものにするため、毎月1回、河川敷清掃活動を実施しました。少しずつではありますが、別団体からの参加者や一般の参加者が増えてきました。また、清掃活動を行った結果、当団体が吉野川で実施している他のプログラムにおいてフィールドのゴミが減り、活動しやすくなるという良いサイクルも生まれています。これからも実施する清掃場所の選定を工夫しながら活動に取り組み、より川の魅力を伝えられるようにしていきたいと思ひます。

- 活動回数 / 10回
- 活動参加人数 / 129人
- うちTOTOグループ社員 / 31人
- ゴミの回収量 / 11,760kg

### 現地の声

<団体代表>  
活動を続けてきた結果、少しずつですが、目立つゴミが減ってきたのかなと思っています。しかし、依然としてゴミは多くあります。より多くの方に清掃活動に参加してもらい、ゴミを捨てない人を増やしていきたいと考えています。

<参加者>  
分別して捨てれば再利用できるペットボトルや缶が、一度捨てられてしまうとすべて埋め立てゴミとして処理されてしまうことを知ることができました。



子どもも楽しみながら活動



清掃活動しながら干潟観察



第十堰 清掃活動

# 26 東朽網校区まちづくり協議会

国内 [代表者] 利光 央

当協議会は、小学校校区単位で地域コミュニティのネットワークを構築するとともに、住民の保健福祉、防災・防犯、生涯学習の拠点となることを目的として設立されました。地域住民相互の連帯感と自治意識の高揚を図り、地域共通の課題解決に努め、ふれ合いのある心豊かな地域社会づくりを目指して活動を行っています。TOTO水環境基金の助成をきっかけにして、それまで有志で行っていた環境整備を当協議会が中心となって計画的に進めてきました。山から海までの広範囲にわたって様々な環境活動を実施しています。

- 水晶山清掃登山
- 昭和池周辺・もみじ谷の環境整備、古木の伐採、植樹
- 昭和池クリーン作戦(清掃活動)
- 朽網川清掃
- 曾根干潟: 清掃活動、野鳥と水生動植物の観察会
- 曾根干潟: カブトガニ産卵場所の環境保全活動・産卵観察会
- 東朽網健康ウォーキングフェスタ(清掃ウォーキング)



東朽網健康ウォーキングフェスタ

## 水と緑の美化プロジェクト

■活動地域：福岡県北九州市小倉南区 ■助成期間(年)： 1 2 3

東朽網は、水源地である水晶山から豊富な水をたたえる昭和池、朽網川、豊かな養分を海へと送り出す河口や干潟と、それぞれが地域の宝ともいえる一連の水環境を有した稀な地域です。この豊かな自然を通して、環境の変遷や地域の未来を住民全体で考えていくために、大人から子どもまであらゆる年代の住民と一緒に学ぶ体験型学習活動と清掃活動を実施しています。水環境を次世代へ守り繋ぎ、その大切さを共感できる環境意識の高い人づくりを目指し、大人のみならず子どもたちのシビックプライドを醸成していきたいと考えています。毎回、TOTO社員の皆さまや一般ボランティアの皆さまに参加いただき、大規模で効果的な活動に繋げることができました。今後もふるさと東朽網を愛する心を育み、継続して水環境を守り繋げる活動に取り組んでいきます。

- 活動回数 / 34回
- 活動参加人数 / 943人
- うちTOTOグループ社員 / 225人
- ゴミの回収量 / 1,680kg
- 植樹 / 17本 (陽光桜、八重桜)
- 整備した面積 / 21,000㎡
- 植物駆除 / 21本 (桜の古木)

### 現地の声

<参加者>  
干潟の観察会や清掃活動に初めて参加しました。この素晴らしい自然環境を地元の方はたぶん身近すぎて気づいていないのではないかと思います。カブトガニの生息地は日本全国で数か所しかないので、この活動を通して未来永劫保全して欲しいと思ひます。可能な限り参加したいです。

・レジ袋やストローなどのプラスチック製品が、マイクロプラスチックになって魚や鳥の胃の中に溜まっていくことを初めて聞きました。これからは、気を付けようと思ひました。



昭和池もみじ谷環境整備



朽網川清掃



カブトガニ産卵観察会



# 27 NPO 法人 改革プロジェクト

国内 [代表者] 立花 祐平

2010年9月に「改革プロジェクト」を発足し、地域の海岸などの清掃活動に取り組んできました。また、知人女性が不審者の被害に遭った事件をきっかけに地域の見回り活動を開始し、2013年に新しいスタイルの防犯活動として若者を中心とした「パトラン(パトロールランニング)」を立ち上げました。現在では全国で11のパトランチームを展開し、約1,300人のパトランナーが活躍中です。「まちの環境づくり」・「パトロール事業」・「防犯啓発事業」の視点から、子どもや女性が安心して暮らせる地域社会の実現を目指しています。

- 【まちの環境づくり・海岸清掃活動】
- 市街地清掃活動:パトロールをしながらゴミ拾いをする「星屑集めパトラン」
  - 海岸清掃活動:定例活動(月1回)「Yの字作戦」
- 【パトロール事業】
- 夜間パトロール(個人パトラン&チームパトラン)  
帰宅途中の女性や塾帰りの子どもが被害となりやすい駅や塾周辺でパトランを実施
  - 子ども見守りパトラン  
下校時間に合わせ、小学校と連携してパトランを実施
- 【防犯啓発事業】
- 子どもや女性が自らの身を守るために必要な防犯知識と回避方法などについてのワークショップ・講演を全国各地で実施



パトラン山形チームキックオフ

## Yの字作戦2018

■活動地域: 福岡県宗像市 ■助成期間(年): 1 2 3

宗像の自然環境は美しく雄大ですが、近年海岸や河川的环境は著しく低下しています。世界遺産にも選ばれた宗像が誇る大島、地島、釣川の美しい自然環境を後世に残していくことの必要性を感じ、当プロジェクトを実施しています。

1年間のプロジェクトで計6回の活動を実施、1,992kgの漂着ゴミや廃棄されたゴミ、漂着木材などを回収することができました。「Yの字作戦」のプロジェクトに関わるメンバーは、10～30代がメインの若い世代を中心に構成されています。TOTO社員の皆さまや一般のボランティアの皆さまに参加していただくコラボイベントでは、海辺の現状を知ってもらい、環境問題について考え、行動に結びつけてもらう一歩に繋げることができました。自然環境の改善には、まだまだ多くの方の協力や環境意識の醸成が必要ですので、今後も息の長い活動として地域に定着させる必要性を感じています。

- 活動回数 / 6回
- 活動参加人数 / 208人
- うちTOTOグループ社員 / 105人
- ゴミの回収量 / 1,992kg

### 現地の声

<参加者>

- ・子ども(3才児)を連れての海浜清掃参加でしたが、時間もほどよく、楽しく活動できて良かったです。
- ・以前から活動に興味があったので参加しました。きれいになった砂浜を見てすがすがしい気持ちになりました。
- ・子どもにもボランティアの体験をしてもらいたくて参加しました。自分たちでゴミを拾ってきれいになった海に、夏には遊びに行きたいと思います。



さつき松原海岸クリーンアップ



宗像市にある小森川のゴミ拾い



深浜海岸清掃活動

# 28 津古ふるさと会

国内 [代表者] 松永 久記

一級河川筑後川水系宝珠川に合流する宝珠川は、里山を流れる全長約5kmの河川です。1980年代、中流域で福岡・久留米商業圏のベッドタウンとして宅地造成・都市化が進み、人口増と共に宝珠川へのゴミ投棄や周辺道路へのポイ捨てが増加しました。そこで、子どものころ宝珠川で川遊びをした区民有志が汚れを憂い、2006年から清掃活動を始めました。活動を継続するうちに粗大ゴミは減少しましたが、ペットボトル、レジ袋などの生活ゴミは増加しています。「きれいな環境下では投棄ゴミは少ない」と言われており、川面に泳ぐ鯉、春はナノハナとサクラ、秋はヒガンバナが咲く土手、年中花が咲く四つの花壇の光景を維持することによってゴミの投棄を防ぎ、子どもたちと共に自然が傍にある住環境を目指して活動を続けています。

- 宝珠川清掃・景観整備  
清掃活動(年3回)と鯉の放流、土手にヒガンバナの球根植付け実施
- 花壇の管理・運営  
「津古バス停」、「津古駅踏切」、「八龍神社境内」、「県道582号線側道」の4か所に花壇を設置。投棄ゴミの清掃と雑草の除草を行い、マリーゴールド、パンジー、コスモスなどの植付け、手入れを実施



県道コスモス除草

## 津古の住環境に溶け込む宝珠川の清流再生と維持

■活動地域: 福岡県小郡市 ■助成期間(年): 1 2 3

プロジェクト2年目の活動となる2018年度は、宝珠川清掃活動3回、鯉放流2回、植花活動5回、合計10回の活動で延べ220名が参加しました。活動の柱として「宝珠川の清流再生」を掲げ、初年度からの活動拡大を目指していましたが、年間参加人数・回収ゴミ量ともに上回り、一定の成果を出すことができました。地域連携イベントとして企画した宝珠川土手の「ヒガンバナ球根植付け」においても、当会発足以来最大の参加者を記録することができました。活動に際し、津古地区をはじめ小郡市、筑紫野市の近隣自治会や小郡市役所(市長室、ボランティア協議会)への案内、子ども会との打ち合わせなどを実施した事前準備が功を奏したと考えています。これらの活動により、地域住民の身近な環境が、一年を通して自然を感じながら散歩できる光景へと変わってきています。

- 活動回数 / 10回
- 活動参加人数 / 220人
- うちTOTOグループ社員 / 5人
- ゴミの回収量 / 220kg
- 植樹 / 1,000本(ヒガンバナ)
- 整備した面積 / 120㎡

### 現地の声

<団体代表>

活動当初は地域の関心も薄く、一般参加者も少なかったのですが、特に今年度は小郡市長や副市長が活動に参加していただき、小郡市ボランティアセンターからの紹介もあって参加者の増加・認知度の向上につながりました。現状以上の成果を上げるために、より一般参加者を増やしていけるよう募集を強化していきたいと思います。

<参加者>

マリーゴールドの種を初めて見ました。種を蒔いたポットに水も掛けました。いつ芽が出るかなあ?



会員が子どもにマリーゴールド種の蒔き方を説明



小郡市長も一緒に植え付け



植え付け予定地、宝珠川土手の草刈り



29

# NPO 法人 水辺に遊ぶ会

国内

【代表者】 足利 由紀子

大分県と福岡県の県境にある中津干潟は、絶滅危惧種のカブトガニやアオギスの生息地として知られ、瀬戸内海最大の面積と環境を誇っています。当会はこの中津干潟の保全活動を実施して今年で20年になる団体です。活動当初、ゴミが散乱し、人の姿もなく、「死んだ海」「近寄ってはいけない」と言われていた泥の海で、小さなカブトガニの子どもを見つけた時の感動を多くの子どもや市民に伝えたいと考えました。身近な自然が実は豊かで素晴らしいことを知ってもらい、いつの間にか遠くなってしまった「海と人の心の距離」を取りもどすことを目的とし、「生きもの元気、子どもも元気、漁師さんも元気な中津干潟を100年後も!」を合い言葉に活動を続けています。

- 地域の自然環境への理解を深める啓発活動(自然観察会・学校や社会教育の場での環境学習支援・教材作成など)
- 調査研究活動(カブトガニや希少種の生態調査・環境調査など)
- 海岸清掃ほか環境美化や廃棄物問題に対する実践活動
- 地域振興を推進する活動(漁業体験・魚食推進など)
- 自然環境に関する情報の収集と発信
- 「中津干潟アカデミア」の運営(干潟研究の推進と青少年の自然科学分野への興味喚起)
- 小さな干潟の博物館「ひがたらほ」の運営



調査研究活動(カブトガニ調査)

## 生きもの、子ども、自然が元気な中津干潟みらいづくり活動

■活動地域：大分県中津市

■助成期間(年)： 1 2 3

「ビーチクリーン」は、大新田海岸で3回、三百間海岸で1回実施しました。多くの参加があり、沿岸域は漂着ゴミが少なく、良好な状態が保たれています。

「松林再生活動」は、大新田海岸で3回実施しました。TOTO社員の熱心な活動協力もあって、荒廃した松林は昔の景観に戻りつつあり、地域からも高い評価をいただいています。地域の小中学校や短大のボランティア活動の場としても活用されていて、かつては中津の春の風物詩であった「浜遠足」も復活しつつあります。

「環境学習推進活動」においては、夏休みを中心にして、干潟観察や活動拠点「ひがたらほ」でのワークショップなどを行い、多くの子どもたちが参加しました。海の絵コンテストには600名近い応募があり、海の自然に対する子どもたちの興味の強さを感じました。

- 活動回数 / 12回
- 活動参加人数 / 1,825人
- うちTOTOグループ社員 / 553人
- ゴミの回収量 / 1,610kg
- 整備した面積 / 19,500㎡

### 現地の声

<参加者>

- ・この活動や「ひがたらほ」に行くと、自分が知らなかった生きもののことを教えてもらえるのでとても楽しいです。
- ・大学進学のため、いろいろ調べていて水辺に遊ぶ会を知りました。調査やボランティアスタッフとして活動に参加して、将来の勉強をしています。
- ・若い頃に興味を持っていた生物の世界をもう一度味わいたくて活動に参加しました。中津の自然がこんなに豊かだと知り、楽しんでいます。
- ・孫を連れて初めて参加しましたが楽しかったです。また参加したいです。
- ・松林を守る活動をしている人たちのことを知り、子どもたちにもボランティア体験を通じて地域のことを知ってもらおうと思いました。



大新田海岸ビーチクリーン



大新田海岸松林再生活動



夏休みオープンラは「ぎょぎょ魚大作戦」

30

# 関の江海岸の自然を守る会

国内

【代表者】 高橋 東洋雄

関の江海岸は別府市の中で唯一自然の砂浜のある海岸であり、数種類の植物が保護植物に指定されています。「この地域の多くの住民と共に、環境の保全と整備に組織的・継続的に取り組み、環境改善を図り、環境に対する意識を高め、自然豊かで美しくみんなから愛される関の江海岸にする」という目標をもって活動してきました。活動には当団体の会員の他に、TOTOグループ社員・ご家族の方々、立命館アジア太平洋大学(APU)の教授や学生たちも多く参加し、より一層環境整備が進んでいます。

- 関の江海岸、冷川、温水川の草刈り・清掃活動(定例活動)
- 冷川の水路調整作業、育成田の草刈り作業(定例活動)
- 公募による大規模清掃活動(関の江海岸漂着物の除去・冷川草刈り)
- 温水川下流における「セキ」の製作・整備活動
- 冷川：ホテルについての学習会・鑑賞会の実施
- 大学生(APU)、高校生(上野丘高校)との交流会実施



大学生との交流会で、私たちの取り組みを説明

## 関の江海岸の自然を守る会

■活動地域：大分県別府市

■助成期間(年)： 1 2 3

別府市で唯一天然の砂浜である関の江海岸には、多くの魚介類はもちろん、保護植物に指定されている「ハマエンドウ」、「ハマウド」、「ハマゴウ」などの希少な植物が群生しています。しかし、多くの雑草がはびこり、また、多量の漂着物などでその生息環境が悪化しています。そこで、当会の会員および近隣大学生たちが協働し、関の江海岸をはじめ、そこに流れ出る冷川、温水川下流の環境整備に取り組んできました。また、6月に2回の大規模な海岸清掃イベントを一般の参加者とともに実施しました。その結果、かなりの雑草が除去され、大量の漂着物なども回収することができて、関の江海岸は美しい海岸に変わってきています。

- 活動回数 / 50回
- 活動参加人数 / 610人
- うちTOTOグループ社員 / 75人
- ゴミの回収量 / 2,000kg
- 整備した面積 / 6,800㎡

### 現地の声

<団体代表>

地域の小学校において、児童たちがホテルの幼虫のエサとなるカワニナの育成を始め、自分たちでホテルを増やす取り組みを始めました。地域の大学生たちも、冷川の環境整備をしながら畑づくりをするなど、自然と関わりを持ち、自然を守ろうとしてくれています。海岸の環境整備を進めていく中で、魚類に大きな悪影響を与えているといわれている「マイクロビーズ」を目の当たりにして、私たちにとっての新たな環境課題を認識しました。



海岸に打ち寄せたゴミなどの回収作業



海岸に打ち寄せたゴミなどの回収作業



関の江海岸清掃活動



# 31 NPO 法人 おおいた環境保全フォーラム

国内 [代表者] 内田 桂

様々な人間活動の変化により、里山・里海が荒廃し、生物多様性が急速に失われ、人類の生存基盤である生態系の危機が迫りつつあります。そのため、地域の自然環境の保全活動を通じ、自然と共生した地域社会の構築を図ることが急務の課題です。自然と共生した持続可能な住み良い郷土を次の世代に伝承するために、国民や一般企業などに対して様々な環境保全に関する情報提供や広報活動および保全・保護活動を実施し、広く公益に寄与することを主な目的として当法人は2009年に設立されました。

- 自然環境等に関する調査・保全活動
- 大分県北西部地域における特定外来種アライグマの動態モニタリング調査および生態系影響評価に関する調査
- アライグマ防除のための普及啓発・防除手法の周知
- 産業廃棄物を活用した藻場再生基盤材の開発と藻場再生実証実験の調査研究
- 絶滅危惧種アカウミガメの調査、保護活動および産卵地の保全活動
- 史跡宇佐神宮境内保存整備事業における自然環境等調査業務委託の受託、生物調査の実施
- はざこネイチャーセンターにおいて自然体験活動および環境教育活動の実施
- 鶴見半島エコツーリズム創出事業の実施



宇佐神宮池内の生物調査および外来生物駆除プロジェクト

## 海浜生態系再生プロジェクト～命をつなぐ海岸の復活をめざして～

■活動地域：大分県佐伯市 ■助成期間（年）： 1 2 3

2017年度に引き続き大分県最大のアカウミガメの産卵地である間越海岸において、防砂垣による養浜活動と海岸清掃や保安林整備などの環境保全活動を地域ボランティアと協働で実施し、海浜生態系の再生およびウミガメが安心して産卵できる環境づくりを行いました。その結果、2018年度は合計4回のウミガメの産卵を間越海岸で確認することができました。海洋プラスチックゴミを再利用したワークショップイベントも実施し、保全のための啓発活動も行いました。私たち人間が日常で使っているプラスチックがゴミとして問題となっている昨今、地球環境に影響をおよぼすその脅威と現状を理解する場ともなりました。ウミガメが産卵できたことにより、参加者にとっても活動の意義を実感することができ、話題性にも富んだ活動であることを周知することができたと感じています。

- 活動回数 / 13回
- 活動参加人数 / 192人
- うちTOTOGグループ社員 / 33人
- ゴミの回収量 / 1,700kg
- 整備実績 / 防砂垣の設置・修復 900m、保安林の下草刈り、枝打ち 1,500m、海浜清掃 500m

### 現地の声

- <参加者>
- ・活動に参加する前は、環境のことは難しいことだと思いついていましたが、何度か参加していくうちに、活動の意義が理解でき、日常生活の問題を考えるようになりました。
  - ・プラスチックゴミをゴミ収集に出した後、それがどのように処理されているか考えたこともありませんでした。この活動に参加して、私たちが地球に与えている負担について、考えるようになりました。
  - ・こんなにゴミがあることに驚きました。みんなでゴミを減らすことに取り組まなければ大変なことになると感じました。



防風防砂のための竹垣の設置・修復作業



ゴミの分別作業



アカウミガメ産卵場所でのレクチャー

# 32 一般社団法人 日本スキムボード協会

国内 [代表者] 矢島 清二

スキムボーディングというスポーツが日本人に親しまれるようになって20年近くになりますが、統括する団体がない状況が続いていました。そこで2012年に日本におけるスキムボード界を統括し、代表する団体として一般社団法人日本スキムボード協会が設立されました。スキムボーディングをスポーツとして確立し、普及振興を図り、さらにはスキムボーダーの心身の健全な発達に寄与すること、また自然環境に携わる組織として、持続的な環境保護と事故防止などを目的としています。地域ごとに地域パートナーズを結成し、パートナーズが中心となってスキムボードの体験会や各地域での環境保全活動(現在全国6か所で結成)を行っています。

- ecoプロジェクト:各地域でのビーチ、海岸の持続的・継続的な環境保全活動を通して現在利用している海岸や周辺地域の現状把握と地域住民との交流、環境意識の向上を図る
- SKIMFES 多くの人達にスキムボードを知ってもらうための無料体験会。スポーツを楽しむ、生涯スポーツ、レジャースポーツの選択肢の1つとして提案していく活動
- 全日本スキムボード選手権大会 全国規模のスキムボーダーの交流促進、技術の向上、競技を通してスポーツマンとしての人間性向上を図る
- 指導者講習会 スキムボードに関わる選択肢を増やし、多くのスキムボーダーが様々な場面でスキムボードに関わることができる環境を目指す
- 小冊子「ルール＆マナー」全国無料配布
- J.S.A会員SKIMCLUB:メンバーズ会員制度の運営



スキムボード無料体験会

## ecoプロジェクト宮崎～アカウミガメとの共存～

■活動地域：宮崎県宮崎市 ■助成期間（年）： 1 2 3

宮崎県一ツ葉海岸は全国でも有名なアカウミガメの産卵地でありながら、認知度はまだ低く、県民でも詳しいことを知らない人が多い状況です。近年は減少傾向にあるアカウミガメですが、その主な原因は漂着ゴミであり、親ガメの誤飲や孵化した子ガメが海に戻る際の障害につながっています。少しでも多くの人にこの地が産卵地であることやウミガメがおかれている現状について知ってもらうために、年間を通して定期海岸清掃と周知活動を実施しました。また、産卵期前には毎月1回ウミガメ観察会を開催しました。観察会の日には海が荒れている日と重なることが多く、ウミガメを見ることはできませんでしたが、親ガメの足跡や卵の殻を数か所確認し、上陸環境を保全する活動を行いました。

- 活動回数 / 12回
- 活動参加人数 / 149人
- うちTOTOGグループ社員 / 20人
- ゴミの回収量 / 406kg

### 現地の声

- <団体代表>
- 活動を続けてきて「毎月最終日曜日はビーチクリーン」と認知されるようになり、定期的に集まってくれる人が増えてきました。当協会の別の地域でもビーチクリーンが定期的に行われるようになり、活動状況などの情報交換により、環境意識の向上につながっています。
- <参加者>
- ・もつといるような地域の方に知ってほしいです。
  - ・ウミガメ産卵期の観察会でウミガメに出会えるのを楽しみにしています。



ビーチクリーン



ecoプロジェクト宮崎



青空学習



在留日系人の支援活動を行っていた元兵士・土居潤一郎氏が、「日本とフィリピンの両国のためになる活動がしたい」と当団体代表・後藤順久に声をかけ、マングローブの植林を始めました。植林活動を通して、両国の友好を深め、友情と共に苗木を育てていくことがモットーです。1997年、ネグロス島シライ市で始めたマングローブの植林活動は、ネグロス島の各地やボホール島へと広がりを見せています。現在では、マングローブの植林だけでなく、山地での植林や環境教育、エコツーリズム、フェアトレード、有機農業、ゴミの減量化など住民の生計向上支援に活動の幅が広がっています。

- エコツーリズム  
マングローブの植林や有機野菜栽培などを組み入れたスタディーツアーの受け入れ
- 先住民族の生計向上支援  
有機農業、ゴミの分別・減量化、フェアトレード商品の販売など
- 水源地の保全、僻地や離島の住民への飲み水の供給
- 沿岸部の清掃活動
- 環境教育・持続可能な発展のための教育
- オーガニックカフェの運営
- 国際協力研修センターの運営  
草の根の国際協力事業を実施していくことができる若者を育成



日本の企業の支援を受け、マングローブを再生

## 水源の森を守り、学校・地域に水を届けよう

■活動地域：フィリピン 西ネグロス州シライ市、ギバラオン村シバト地区

■助成期間（年）： 1 2 3

シライ市の最上流部にあるシバト地区は水源地ですが、水道設備がないため、住民は水を確保するため600m離れた川(高低差60m)まで水を汲みに行き、大変苦労しています。一般家庭だけではなく、学校や集会所にも簡易水道がなく、離れたところから運んだ水を甕(かめ)に入れるか、雨水を溜めたりしています。

当プロジェクトにおいて、小学校・高校・幼稚園に簡易水道を整備するため、システムの設計を実施、それに基づき、川からの揚水と配水のためのポンプとタンク一式を建設し、送水管を学校まで敷設しました。これにより、小学校(生徒数57名)と高校(生徒数51名)、幼稚園(児童数20名)へ水道水が供給されることになりました。学校と幼稚園での生活の利便性を高めるとともに、今後、衛生事情が格段に向上することが期待されます。

- 活動回数 / 15回
- 活動参加人数 / 400人
- 受益者数 / 128人
- 衛生教育 / 30人
- 揚水・配水ポンプ・タンク / 1式
- 給配水施設 / 1箇所

### 現地の声

<団体代表>  
簡易水道が開通した学校での反響が大きく、改めて水の確保の重要性を認識しました。水の利用時に生徒たちが見せる屈託のない笑顔を見ると、本プロジェクトの効果の大きさを推し量ることができます。大量の材料を舗装されていない道を使って運搬した苦労も一瞬にして吹き飛ばすくらいです。また、学校の教員たちにとっても給配水システムに対する期待は大きいものでした。彼らは平日は教員宿舎に宿泊していて、水が無く、かなり厳しい生活を送っていたと思われ、それだけに感謝の気持ちも大きいです。農家からは生活用水だけでなく、農業への灌漑用水への利用の声が寄せられています。



小高い地点にタンクを設置



学校までの水道が開通、記念式典開催



水供給システムについての住民説明会

1991年パリ和平条約協定の締結後、故シアヌーク元国王の要請を受け、カンボジアの国の復興・再建に協力するために、1993年に「ジャパン・リリーフ・フォー・カンボジア」を設立しました。世界銀行やアジア開発銀行からの助成金と個人などからの寄付金を募り、カンボジア僻地の貧しい農村を中心にカンボジア23州全域に小中学校550校以上を建設し、政府に寄贈しています。また2007年からプノンペンで孤児院・全寮制学生寮を開園し運営しています。1996年にはプノンペンに病院を設立して無償で100万人以上の治療を行い、医療施設の乏しいプレブヒア州・ラタナキリ州においては診療所を開設し、米国MITの協力を得て遠隔医療を行いました。

- 学校建設(学校建設および建設した学校を寄贈)
- 女子奨学金(貧困により学校へ行けない女子生徒への奨学金支援)
- 教育サポート(英語とコンピュータのトレーニング・プログラムを実施)
- 孤児院支援(HIV / エイズによって両親を失った孤児の生活支援)
- 学校設備支援(井戸・トイレの新規設置・修理、図書館、校庭施設の建設)
- 学校給食菜園(野菜を栽培し、無料で栄養価の高い食事を提供)
- 環境教育(植樹・苗木作り・野菜種配布など、体験型環境教育の実施)
- 幼児教育支援(未就学児に対する教育プログラムの実施)



団体の派遣教師による英語コンピュータ教室

## カンボジア農村地域の植樹活動及び環境教育

■活動地域：カンボジア ステュングトゥレング州・ラタナキリ州・モンドルキリ州

■助成期間（年）： 1 2 3

カンボジアの農村地域において、当団体が寄贈した小中学校で環境教育を行い、井戸・貯水タンクの新規設置および井戸・トイレの修理、植樹、苗木づくりを行いました。

井戸やトイレの設置・修理は、学校や村の状況から優先判断をして実施し、概ね今年希望のあった学校は終了することができました。環境教育は、クメール語で作成した資料を各学校の教師に配布して、担任教師が授業の一環で行い、教師や学校主体で行うように心がけました。学校における水環境を整え、環境保護の意識づけを行うことで衛生の向上を図っています。

植樹・苗木づくりについては、乾季(2月から5月上旬)までの水不足が深刻なことから、5月から12月に苗木の配布を行いました。実際に苗木を育てたり、木を植える活動を学校の行事として実施しました。

- 活動回数 / 50回
- 活動参加人数 / 5,000人
- 受益者数 / 6,119人
- 衛生教育 / 5,000人
- ゴミ回収量 / 100kg
- 植樹 / 5,420本
- 井戸建設・修理 / 9基
- 貯水タンク / 4基
- トイレ修理 / 32箇所

### 現地の声

<受益者>  
・学校だけでなく苗木づくりを村でも行いたい。少しでも作物を増やしていきたい。  
・他の支援団体はこんなに遠いところには来てくれません。来てくれてうれしいです。  
・家に苗木を植えられるのでうれしいです。  
・たくさん自分の畑に植えて、売りたいです。  
・生徒がトイレを使えるようになり、病気が減るといいと思います。



モリンガの苗木を学校で作成



井戸を修理しました



校庭に生徒が植樹



## 認定 NPO 法人 アジアチャイルドサポート

【代表者】池間 哲郎

「生きたい」と願っても大人になるまで生きることが困難な子どもたちや、「今まで夢なんか一度も見たことがない、生きるのに精いっぱいだから」と話す子どもたち。どんなに過酷な状況でも懸命に生きる子どもたちと出会い、「生涯、子どもたちを支える活動を本気でやっていこう」と代表理事である池間が決意して活動が始まりました。

「開発途上国の子どもたちが平和で安らかに暮らしていくことを願い、支援を行い、国際協力を通じた日本の青少年健全育成に貢献すること」を理念に掲げています。1999年に任意団体「NGO沖縄」を発足。2002年、特定非営利活動法人アジアチャイルドサポートとして認可を受け、現在は認定NPO法人として支援活動を拡大して継続しています。

### 【支援国】

ミャンマー、ネパール、カンボジア、スリランカ、ラオス、モンゴル、タイ、インド、パラオ、日本

### 【支援事業】

- ・教育支援事業(学校建設、奨学金制度、学校給食、制服支給、学用品支給など)
- ・保護支援事業(HIV感染者保護施設運営、ハンセン病患者保護施設運営など)
- ・インフラ整備事業(井戸建設、橋建設、発電所建設、バイオガスコンロ建設、トイレ建設など)
- ・災害復興支援事業(東日本大震災、ネパール大地震、熊本・大分大地震、西日本豪雨他)
- ・医療福祉支援事業(地域医療診療所建設、福祉車両・車椅子、歩行器贈呈など)



ハンセン病患者保護施設運営 (保護支援事業・ミャンマー)

## 「水で支える暮らし」と「未来へつなげる水環境」

■活動地域：ミャンマー マンダレー地域 チャ・プ・ダウン地区 ウン・ミン・カン村

■助成期間 (年)： 1 2 3

ミャンマー連邦共和国においても、年間降雨量が極端に少ないマンダレー地域では、乾期には毎年のように水源が枯渇し、深刻な水不足に悩まされています。農業を中心に、ほぼ自給自足で現金収入も少ない厳しい生活をするなか、貧しさから抜け出せず、自分たちの力で井戸を建設しようにも、掘削工事費用を捻出することは到底できません。日々必要な水を手に入れることすら困難な状況のなか、衛生環境に目を向ける余裕はなく、感染症などへの対策も施されていません。

当プロジェクトでは、日々の生活や未来への環境改善のため、発電機付き大型深井戸・トイレ・水道設備の建設を行ないました。完成した井戸からは、水の枯渇に対する不安が解消されるような潤沢な水が得られるようになり、学校敷地に建設したトイレは地域の環境改善の拠点となっています。村内6か所に設けた水道設備では、水を汲みに集まる村人同士の会話がはずみ、文字通りの井戸端会議の場となっています。

- 活動回数 / 12回
- 活動参加人数 / 130人
- 受益者数 / 624人
- 衛生教育 / 155人
- 発電機つき大型深井戸 / 1基
- 水道設備 / 6箇所

### 現地の声

<受益者>

- ・村にとって一番必要とされているものを支援してくれて大変感謝しています。
- ・生活が苦しかったので、学校へも通えず文字も書けません。水汲みをしてもらっている子どもたちも井戸のおかげで安心して学校に通わせることができます。心から感謝しています。
- ・以前は空き地で隠れて用を足していました。キレイなトイレが出来たので安心です。とても嬉しいです。



完成した発電機付き大型深井戸設備の前で



水道設備で水を汲みながらの井戸端会議



学校敷地内に建設したトイレ

## Deepak Foundation

【代表者】Archana Joshi

グジャラート州に本社を置く化学物質メーカーであるDeepakグループのCSRを担うため、ナンデサリ工業地区の労働者およびその家族に医療設備を提供することを目指して1982年に設立された非営利団体です。その後、インド全土に活動を拡大しています。設立以来、主に貧しい家庭の女性および子どもに対する母子医療サービスに取り組んできましたが、現在では、生計、栄養、医療、育児、教育、能力開発・訓練、女性のエンパワーメント、天然資源管理ベースの生計など、幅広いセクターで活動しています。

【女性団体およびセルフ・ヘルプ・グループ(SHG)との協働事業】  
団体やSHGへの助言、活動支援、女性酪農家協働組合の設立、女性指導者の育成

【企業と協働したCSR事業】

- ・部族農業者によるファーマーズ・プロデューサー・グループ(FPG)の設立・活動支援(家庭菜園の開発、ダル豆の調達、マーケティングなど)
- ・栄養価の高い食事を学童に届ける女性たちの活動支援
- ・非正規の就学前教育、栄養価の高い食品の補助、健康・栄養検査、医療についての保健所への照会サービスの提供
- ・衛生および節水プロジェクト
- ・移動健康ユニットの導入・展開



小学生健康診断

## Water Conservation

■活動地域：インド グジャラート州 ハロル・カロール地区 ティンピ村、ラダンプル村

■助成期間 (年)： 1 2 3

2018年雨季に測定された雨水は、当該期間の降雨量として極端に少ない量を記録し、ティンピおよびラダンプルの村落では、1年のうち最大数日間しか地下水を利用できないという低い利用可能率が問題となっていました。当プロジェクトにおいて、既存の池をさらに深く掘削し、水路を掃除したことで、十分な雨水を池に蓄えられるようになりました。土壌は堆積土砂や砂状であるため、水はすぐに池へ吸収されますが、池の優れた貯水性と吸水性が地下水の利用可能性を向上させる要因となりました。

また、当地においては産業による汚染が進行し、大気と水は汚染され、健康に悪影響が生じています。これらの状況の改善を図るため、整備した池の周囲や近隣の村落、学校、寺院に700本の植栽を行い、村人たちの手で管理を行っています。

- 活動回数 / 7回
- 活動参加人数 / 100人
- うちTOTOGグループ社員 / 2人
- 受益者数 / 100人
- 植樹 / 700本 (ニーム、カラン、ハイビスカスなど)
- 農業地・水路改修 / 2箇所

### 現地の声

<団体代表>

当プロジェクトにより、事業地である2つの村において、7つの井戸・8つの掘削井戸で十分な水位が達成・維持されるようになり、1年のうち6カ月間地下水の利用が可能になりました。これは想定以上の成果であり、村民の日々の生活にも大きな影響を及ぼし、加えて7ヘクタールの土地に恩恵をもたらしました。

また、事業地において大気・水汚染は大きな問題であるにも関わらず、現地村民の間でこの状況を改善する意思は見られていませんでしたが、プロジェクトで結成されたコミュニティベースの組織を通じて交渉した結果、植樹活動に対する村民の支持と協力が得られました。



プロジェクトで整備する農業池 (ラダンプル村)



プロジェクトへの感謝を伝える村民集会



水環境啓発のための住民トレーニング(ティンピ村)



ロシナンテスは、社会インフラが十分ではないアフリカ・スーダン共和国で医療支援活動を行う国際NGOです。創設者の川原が外務省の医務官としてスーダン共和国に赴任した際に、政治事情により医療の届かない住民たちに出会い、多くの子どもたちがマラリアやコレラで亡くなるのを目の当たりにして、「医者がいない村に医療を届ける」ことを活動指針とし、外務省を辞して2006年に団体を立ち上げました。

無医村地域を中心に、巡回診療、安定した医療を行うための診療所建設、清浄で安全な水を届ける水事業、子どもや妊産婦を対象とする栄養事業などを実施しています。

【医療支援活動】

ハルツーム州における、無医村地域を対象とする巡回診療、診療所の建設

【水事業】

ハルツーム州、北コルドファン州における給水施設の整備

- ・ 清潔な水へのアクセス向上
- ・ 感染症などの予防
- ・ 子どもの水汲み労働の削減

【母子保健活動】

北コルドファン州における、妊産婦・授乳婦および乳幼児を対象とする栄養改善事業(国連WFPおよび地元NGOとの協働)

- ・ 栄養状態の測定による栄養不良の母子の抽出
- ・ 継続的な栄養補助剤の配布



巡回診療の様子(撮影内藤順司)

水衛生改善を通じた、スーダンでのコミュニティ開発事業

■活動地域：スーダン共和国 北コルドファン州 ■助成期間(年)：1 2

スーダンで清潔な水を利用できる人々の割合は、都市部で59%、農村部は52%と言われています。事業地のオムサマーマ村は、首都ハルツームより車で約5～6時間の場所に位置する農村部で、清潔な水にアクセスすることが困難な地域のひとつです。

住民は汚濁した水を使用しており、感染症の原因となっています。また、子どもが遠くの給水施設まで水汲みへ行くこともあり、子どもの教育への参加を阻む一因となっています。

そこで当事業においては、水衛生の改善と管理能力向上を目指し、給水施設の整備を実施しました。給水施設の完成により、約10,000人の住民が清潔な水にアクセスできるようになりました。また給水所は村の小学校の近隣に位置しており、小学校に通う子どもたちも清潔な水を使用することができるようになりました。

給水施設は村の住民が組織した水委員会へ譲渡し、管理方法について指導を行いました。今後は、住民たちの手によって継続的に運営されます。

- 活動回数／9回
- 受益者数／10,000人
- 水汲み上げ給水施設／1基
- ソーラーパネル／1基
- 貯水タンクタワー／1基
- 給水所／1基

現地の声

<団体代表>

当事業によって住民は清潔な水を手に入れることができましたが、活動を通して住民が自らこの給水施設を運営していくという意識がみられました。給水施設の整備は水の提供だけでなく、自分たちの生活基盤を自分たちで守っていくという自主性の育成にもつながり、現地のコミュニティに良い変化をもたらしたと感じています。

<受益者>

地域の一番の課題であった、水不足が解決されました。今後は給水所を維持できるようコミュニティで協力していきます。



完成した給水施設



完成した給水所で水を汲んでいる住民



完成した給水所に水を汲みに来た子どもたち

「モザンビーク人によるモザンビークのためのQOLの向上」を目的に、2013年に当会を設立しました。世界で最貧困国の一つとされるモザンビーク共和国において、貧困度や乳幼児死亡率の高い北部カーボデルガド州・ペンバのスラム地区に事務局を構え、スラムの青年有志とともに、教育、公衆衛生、水環境整備、農業、国際相互理解活動を実施しています。

真の草の根活動を現地の人たちと行うことをコンセプトに、日本や諸外国の知恵や技術を注ぎつつ、一方で先進国の論理と開発途上国のニーズのジレンマが生じないように配慮しながら、貧困層の人々が自立・創造的な暮らしを送れることを目指して活動を展開しています。

- 教育活動  
スラムの学び舎・寺子屋および事務局でのこども教育活動(毎日実施)
- 公衆衛生活動  
公衆衛生教育(3年目)、ペンバ環境美化活動(4年目)
- 水環境整備活動  
井戸とトイレの建設(各30基以上)、浄水器の配布(2,000個)、水道管整備
- 農業活動  
米と野菜の栽培、灌漑設備の整備
- 国際相互理解活動  
アフリカ・マコンテ族の音楽と文化交流ツアー(4回目)



ニビコ村に設置したロープポンプ式井戸

モザンビーク・ペンバにおける公衆衛生プロジェクト

■活動地域：モザンビーク共和国 カーボデルガド州ペンバ ■助成期間(年)：1 2 3

モザンビーク共和国カーボデルガド州ペンバでは、慢性的な水不足および公衆衛生知識の欠如により、コレラや殺菌感染症による死者が発生し、5歳未満の死亡率が18%にのぼっています。そこで、当会が建設したスラム学舎・寺子屋で、主に子どもを対象とした公衆衛生教育を実施しました。

また、当初予定では、住民の水へのアクセス率を高めるため、寺子屋および事務局の給水・浄水設備を整備し、浄水器の製作配布を行う予定でしたが、ゲリラ攻撃を受けた農村地区からの要請を受け、緊急支援として浄水器300セットの配布を行い、少なくとも300世帯1,800人以上の人たちが安全な水を飲めるよう対処しました。

- 活動回数／6回
- 活動参加人数／185人
- 緊急支援活動・浄水器／300セット(300世帯)

現地の声

<団体代表>

公衆衛生活動は2年目の取り組みとなりましたが、待ち望んでいた子どもたちが多かったです。今回初めての子供たちもいて、歯磨き・手洗い習慣、爪切りや血洗いの方法を学び、大好評でした。爪切りを見たこともない子どもたちも多く、爪切り教室は興味津々の雰囲気でした。



歯みがきの方法を教育



爪切りの使い方教育



農村地区での浄水器の配布



あしたを、ちがう「まいにち」に。  
**TOTO**

**TOTO株式会社**

(TOTO水環境基金事務局)

〒802-8601 福岡県北九州市小倉北区中島2-1-1

TEL:093-951-2224 FAX:093-951-2718

(2019年8月発行)

